

北海道大学 大学院文学院 2020

*Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University*

2020年度 北海道大学 大学院文学院



北海道大学
大学院文学院

*Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University*

文学院院长挨拶

文学院で行われている授業の学問分野を一言で表現するならば、「人文学」という言葉が相応しいだろうと思います。それでは「人文学とは何か」ですが、これについては古今を通じてさまざまな説明の仕方があります。

人文学、英語ではhumanitiesですが、このhumanitiesは「人間性」や「人間」を指すhumanityの複数形です。漢字の表記でも同じですが、この言葉から類推すると、人文学というのは、「人間に関係する学問」と言うことができます。この人文学は歴史的にはイタリア・ルネサンスにおいて興隆した「フマニタス研究（studia humanitatis）」に遡ることができ、このフマニタス研究は、古代ギリシア・ローマの哲学・文学などの原典研究を通じて幅広い教養を身につけ、人間性を回復することを目的としていました。そもそもこのラテン語のフマニタス(humanitas)は、「人間性」という意味とともに「教養」という意味もあり、教養と人間性が不可分な関係にあることが分かります。

「人文学とは何か」に話を戻し、この歴史的な経緯から考えますと、人文学とは「人間性を陶冶する教養を身につける学問」と言うことができるように思います。文学院で学ぶ人文学は、私たちが人間として豊かに生きていくために必要な学問であり、人文学を学ぶことは、人間として豊かに生きる教養を身につけることとすることができます。しかしそれは単にさまざまな知識を詰め込むことを意味してはいません。人文学は、もちろん古今東西のさまざまな知識などを対象としていますが、自分で考えることができ、自分の言葉で表現することができます、自ら行動することができる人間となることを目指しています。

昨今、実学志向が強くなりつつあり、就職や資格を重視する人たちは、人文学という学問にあまり魅力を感じないかもしれません。しかし人間として生きていくための学問として、人文学は最も重要な学問の一つだと思います。そのため文学院で学ぶ人文学は、修了した後も学び続けることを必要としています。大学院では一生涯続けることができる学問的な基礎を身につけ、修了後も一人一人が学び続けることが大切です。豊かな教養を身につけた者が、私たちの社会を担い、また次の世代へと文化を継承していくのです。

本年度より改組した文学院は、新たな専門分野を加えより一層多彩な分野の教育にあたります。また「教養深化プログラム」を新たに実施し、広くまた深く人文学を学ぶ機会を提供します。さらに人文学に関する豊富な文献や資料を擁し、充実した教育研究環境を整えています。緑豊かなこの広大な北大のキャンパスで「人文学」を学んでみませんか。



北海道大学大学院文学院院长

山本 文彦 やまもと ふみひこ

「人文学」への誘い

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
教養深化プログラム	05-06
支援制度	07-08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 1	29-30

人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----

「人文学専攻」と「人間科学専攻」の 2専攻体制

文学院は、改組前の組織である文学研究科の思想文化学・歴史地域文化学・言語文学専攻を統合することで人文学の総合的な学びが可能となった「人文学専攻」と、人間システム科学専攻の先端的で豊かな研究環境を継承・発展させた「人間科学専攻」との2専攻からなります。学際的な人文・社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

● 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

■ 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみなさんの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。

■ 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室を新設することにより、社会的な関心に対応した、これまで以上に多彩な学修ができます。

■ スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかできない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室*

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室*
- 博物館学研究室*
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室*

詳細は [p.09](#)

人間科学専攻

Division of Human Sciences

■ 人間と社会に関する総合的な学修ができます。

■ グローバルCOEなど大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。

■ 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。

■ 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

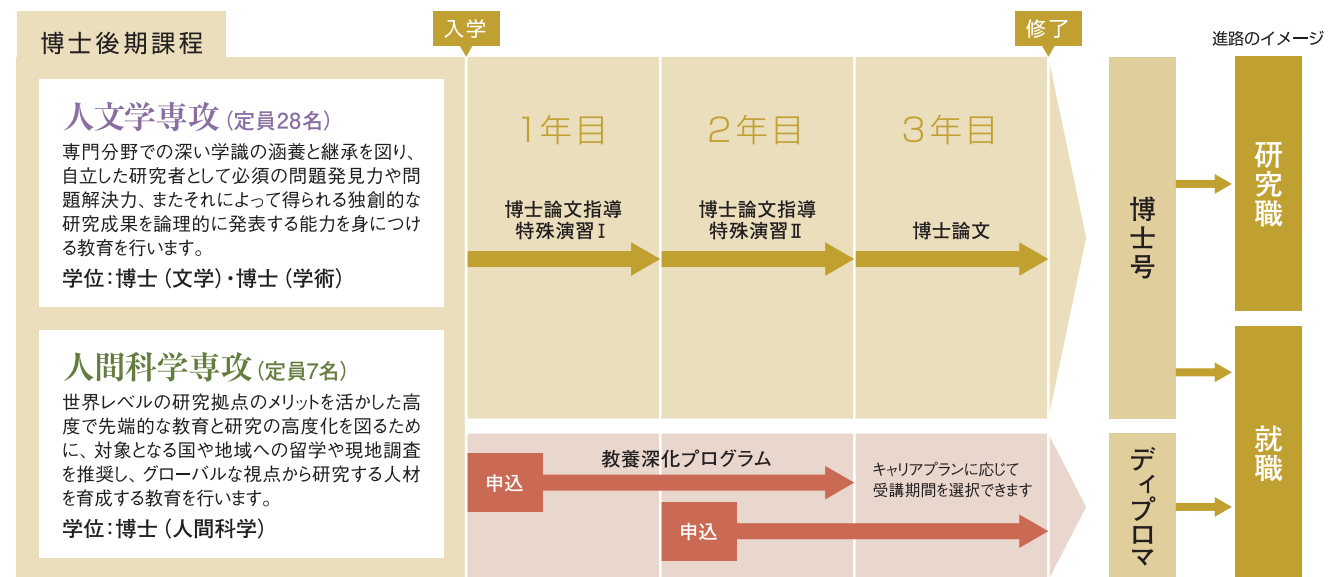
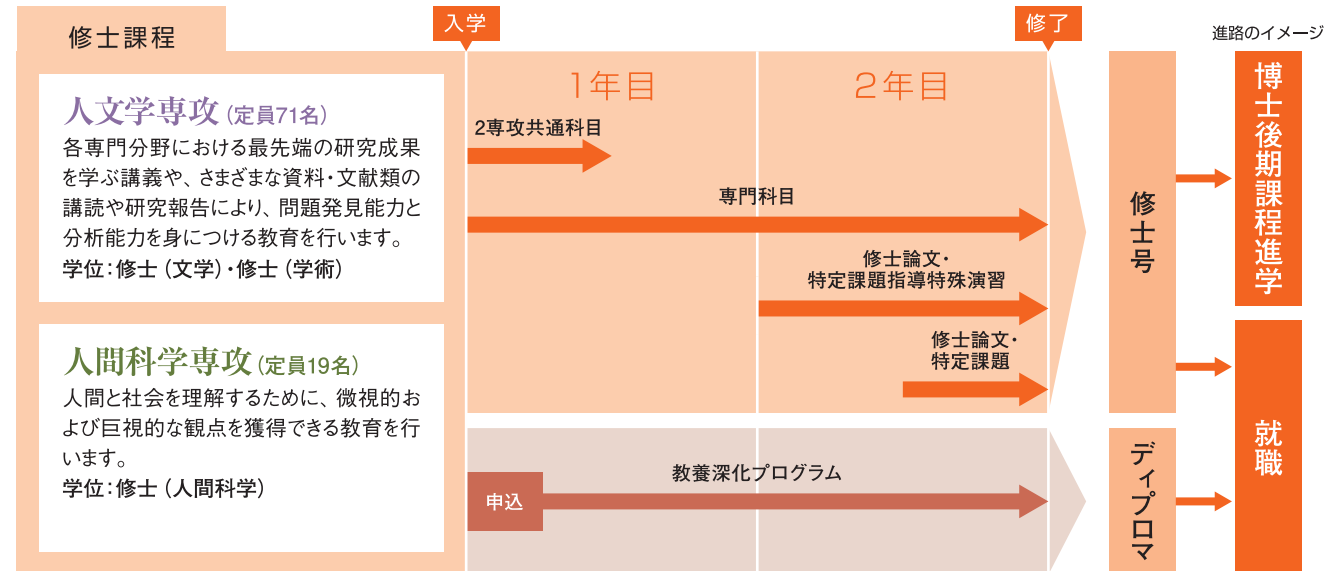
- 地域科学研究室

詳細は [p.31](#)

2専攻共通科目を新設。
俯瞰的な視野で
人文・社会科学を広く学修します。

2019年度新設の「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」は、各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学修することを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

● キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



教養深化プログラムの詳細は [p.05-p.06](#)

● 文学院が目指す人材像

人文学専攻

■ 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析的確に行う能力を備えた人材。

■ 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

■ 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門知識を備えた人材。

■ 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。



2019年度から新たな教育プログラムを開設！ 文学院での学びを社会に活かす

教養深化プログラム



高度な専門知識を持った 即戦力人材に成長

※1) ジェネリックススキル
社会人として活躍するための能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な力を指す言葉として使われています。

教養深化プログラムの受講希望者は、
専門研究を深めていくかわら、
人文・社会科学諸分野の総合的な学修と、
社会で役立つジェネリックススキル^{※1}を学修することにより、
高度な専門知識を有し、社会で即戦力となる
人材へと成長していきます。

博士後期課程の学生にとっても
幅広いキャリアへの扉が開けます。

プログラムの特徴

人文・社会科学の 総合的な学修

文学院を含む文系6大学院を
横断する学びで
「考える力」「書く力」「読む力」
「発表する力」「総合する力」の
レベルアップを目指します。

文理融合・ 学際的な学修

数理的思考やさまざまな
データの分析及び活用方法を
学修するとともに、
自然科学分野の最先端の
知に触れることができます。

社会と繋がる 実践を重視

人材育成本部、キャリアセンター、
CoSTEP^{※2}と連携した
実践的なプログラムにより、
高度なジェネリックススキルが
身につきます。

※2) CoSTEP
北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門。科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる、教育研究組織。

受講の流れ

北海道大学大学院 入学

修士課程
博士後期課程

●文学院

●教育学院
●法学研究科

●経済学院

●国際広報メディア・観光学院
●公共政策学教育部

教養深化プログラム申込

原則として希望者全員が参加できます

教養深化科目群[プログラム生限定科目](10単位以上)

●教養深化特別演習(基礎・総合)

基礎:多角的に分析し複合的に把握する能力を身につける。

〈授業例〉■古典を読む
■文章作成と表現の技術
■伝える媒の技術

総合:基礎で習得した能力を実践を通じてさらに向上させる。

〈授業例〉■ニセコ・フィールドスタディ
■修学旅行の企画を立てる

●サイエンスリテラシー特別演習

数理的思考とデータ処理・活用法を知り、
自然科学研究の最先端に触れ、的確に伝えるスキルを学ぶ。

〈授業例〉■人文社会科学からみたデータ
■科学と社会
■デジタルクリエイティブ基礎



ジェネリックススキル科目群[大学院共通授業科目](4単位以上)

●ジェネリックススキル特殊講義

社会に必要な考え方や実践的なスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション等)を
身につける。

〈授業例〉■キャリアマネジメントセミナー

●ジェネリックススキル特別演習

第一線で活躍するゲストスピーカーの講演等を通じて、自身のキャリアの可能性を考える。

〈授業例〉■キャリア形成(集中講義)



修了要件を満たすとディプロマを取得できます。

国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に!

支援制度

この充実度は北大文学院ならではの

研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が揃っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。

若手研究者を多角的にサポートしています。

国際学会・全国学会に参加したい

出張旅費支援

「共生の人文学」プロジェクト〈Graduate Grant Program〉

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表に対する旅費を支援しています。「北海道から参加するという経済的な負担を軽減してくれる」と利用者に好評です。資料調査や現地調査に対する旅費支援も行っています。

利用者の声

学会発表への意欲を後押し
応募期間と学会開催日を要チェック



言語科学研究室

博士後期課程2年

中村 真衣佳

NAKAMURA Maika

私の専門は言語学です。「子供が溺れかけだ。」のように名詞文でありながら動的な解釈が生じる言語現象に着目して統語論と語用論の観点から研究しています。出張旅費支援制度は修士課程1年の12月に神戸市で開催された日本語文法学会で口頭発表するために利用し、2度目は修士課程2年の3月に東京都内で開催された社会言語科学学会に使っています。北海道から全国学会に参加する際に、旅費の心配をせずに学会発表に集中できるというのは大変有り難いことです。おかげで1度目の利用で学会発表した内容を発展させ執筆した論文が、文学院の『研究論集』に掲載されました。申請の準備は早めに取りかかることが大切です。年間の応募期間が4期に区分されており、指導教員の先生にも所見をご記入いただくやりとりが発生します。学会発表後に速やかに提出する報告書も含めて本制度の利用となります。私の場合、2度利用したことで、北海道大学の一員として研究活動をしているという自覚が芽生えました。みなさんも入学したらすぐに本制度の応募期間と関心ある学会の開催日程を確認して、アクティブな学会発表の計画を立てることをお勧めします。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

一度目の学会発表をもとに論文を執筆し『研究論集』に掲載。二歩も三歩も進む推進力に。

英文ジャーナル等に投稿したい

校閲費支援

「共生の人文学」プロジェクト〈Graduate Grant Program〉

国際学会・国際研究集会での発表及び国際学術雑誌や文学研究院の英文ジャーナル[※]等へ積極的に応募・投稿できるように、発表原稿や投稿原稿の校閲（英文等の添削）料を支援しています。支援回数に制限がないため、本制度を上手に利用しているリピーターもいます。

利用者の声

支援回数に制限なし
ストレスなく研究に専念できます



心理学研究室

修士課程2年

前澤 知輝

MAEZAWA Tomoki

私の主な研究テーマは聴覚による空間知覚で、他にも、動物の行動や物の魅力などについて研究しています。修士課程1年生からこれまで4度、学術誌に論文を投稿するために校閲費支援制度を利用しました。本制度の最大の魅力は、なんといっても支援回数に制限がないことです。ただし、1度に使用できる上限額が決まっています。その中におさるように意識する必要があります。

支援を受けた2本の論文のうち、ひとつが学術誌で受理されました。もうひとつも現在査読中で、引き続き本制度を利用する予定です。支援回数に制限がないということは、1年のうちに執筆できる本数に金銭面での制限がかからないということでもあります。今の執筆作業を進めながら、並行して次に取りかかることも不可能ではありません。また本制度は国際会議等での予稿にも適用できるので、「現在支援を申請中の論文があるから、学会分の校閲費用は自己負担しなければならない」といったことを気にせず研究に専念することができました。海外誌への論文投稿に英文校閲は必須ですし、校閲は自分の英語力アップにもつながります。今後もぜひ持続してほしい制度です。

※文学院および文学研究院が発行する雑誌『研究論集』、Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences では、大学院生の論文発表の場を設けています。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

校閲後の論文が学術誌で受理。書けば書くほど、英語力も磨かれます。

学振の特別研究員に応募したい

申請書の書き方セミナー

文学院では、学術振興会特別研究員（DC・PD）になるための申請書類の書き方セミナーおよび相談会を開催しています。本セミナーでは特別研究員に採択された先輩の体験談や審査員経験を持つ教員の話を聞くことができ、参加者満足度は毎年95%を超えています。

利用者の声

求められる水準の高さを知る
余裕をもったスケジュール管理が鍵



哲学倫理学研究室

博士後期課程3年

小林 知恵

KOBAYASHI Chie

主に英語圏の倫理学の中でも、「よい」「正しい」といった言葉がもつ意味や機能に着目して、人間と道德の関係について研究しています。申請書の書き方セミナーは2回受講しました。研究室の先輩の申請書を読ませていただいても作成のプロセスがイメージできずに悩んだ時期があり、採択者の方々からの具体的なアドバイスを聞けなかったのが、受講動機です。申請書作成は論文執筆とは異なり、分野外の人にも研究内容を分かりやすく伝えることが重要で、自分の研究の意義や新規性を積極的にアピールしたと語る採択者のお話に、求められる水準の高さを実感しました。

学振特別研究員の申請書作成にあたっては締切よりもかなり早めに完成できるように留意しました。私の評価書を作成いただく指導教員の先生に前もって申請書を見ていただいたり、先輩や後輩に添削を頼むなど、余裕をもったスケジュールで準備にあたり、無事採択に至りました。セミナーの内容を活かして民間財団の留学奨学金も獲得でき、自身の研究とキャリアに弾みをつけることができました。現在悩んでいる方は一人で抱え込まないで、ぜひ本セミナーの情報提供やフィードバックを受けてみてください。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

学振も民間の留学奨学金も採択されて次のステージへ。中長期的キャリアの追い風に。

質・量ともに国内屈指の文献資料 学外でもアクセス可能な電子ジャーナル

- 北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約383万冊。
- 院生各自が研究に必要な図書を購入できる「院生図書費」を確保。
- 「電子ジャーナル」は、北大生ならいつでも・どこからでも閲覧とプリントアウトが可能。



▲文学部図書室は蔵書約29万冊・雑誌約5,100種を所蔵。

国境を越え世界の息吹を実感 専門研究を深める国際交流・留学制度

- 北海道大学では50カ国・地域、196大学等と大学間交流協定を締結（2018年10月現在）。
- 文学院独自の留学制度もあり、語学の習得や国際的な研究を後押し。
- 大学院生の交換留学先は、部局間交流協定校の英国のマンチェスター大学、ロンドン大学、サセックス大学、フランスのパリ・ディドロ大学、ドイツのデュースブルク・エッセン大学、クロアチアのザグレブ大学、米国のアリゾナ大学の他、大学間交流協定校ではストラスブル大学連合、ミュンヘン大学、モスクワ国立大学、国立台湾大学、オハイオ州立大学、ウィスコンシン大学マジソン校、マサチューセッツ大学、アルバータ大学、高麗大学校、ジュネーブ大学、極東連邦総合大学、ソウル大学校、サハリン国立大学、オウル大学など多くの大学への交換留学実績あり。

大学院生の経済的負担を軽減 TA・TF・RA採用者に給与を支給

- ティーチング・アシスタント（TA）制度 修士課程・博士後期課程対象
- ティーチング・フェロー（TF）制度 博士後期課程対象
- リサーチ・アシスタント（RA）制度 博士後期課程対象

豊かな環境が育む研究成果 栄えある受賞者が続々輩出

〈2018年度 受賞者情報〉

- 日本心理学会 優秀発表賞 伊藤資浩さん（博士後期課程）
- 北海道心理学会 奨励賞 伊藤資浩さん（博士後期課程）
- 日本社会心理学会 若手研究者奨励賞 横山実紀さん、本間祥吾さん（修士課程）
- 日本人間行動進化学会 若手発表賞 中田星矢さん（修士課程）
- 暁烏敏賞 猪ノ原次郎さん（博士後期課程）
- 日本ロシア文学会賞 生熊源一さん（博士後期課程）
- 地理情報システム学会 大会優秀発表賞 内藤健裕さん（修士課程）
- 日本哲学会 若手研究者奨励賞 秋元由裕さん（博士後期課程修士生）

人文学専攻

人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに――。

新設 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室の4研究室

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

■主な講義題目

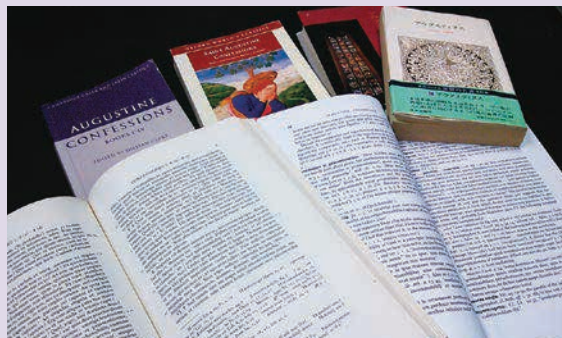
哲学倫理学研究室	■形式認識論講義 ■現代規範倫理学・メタ倫理学 ■哲学・倫理学発表演習（エニグマ論） ■西田幾多郎と現代の哲学 ■生命倫理学英語文献講読
宗教学インド哲学研究室	■宗教学と死生学・生命倫理 ■新約聖書正典と初期キリスト教の成立 ■仏教学専門文献講読
日本史学研究室	■明治憲法体制と国家の運営 ■植民地朝鮮の社会と文化 ■日本近現代社会経済史研究の現在 ■近世蝦夷地在地社会論 ■日本中世史の諸問題 ■古代法制史料の研究
東洋史学研究室	■中国史の諸問題 ■アラブ・イスラーム史研究 ■中東社会史研究
西洋史学研究室	■フランス近現代史研究 ■アメリカ史研究 ■西洋古代史研究 ■現代歴史学の諸問題 ■ヨーロッパ中世・近世史
考古学研究室	■考古学と人類誌 ■環境考古学と動物考古学 ■礼文華遺跡発掘調査
文化人類学研究室	■いのちと自然の人類学 ■自然誌を書く
芸術学研究室	■芸術学の諸問題 ■想像力について ■西洋美術史研究の現在
博物館学研究室	■自然史資料の維持・活用 ■博物館と市民・地域社会 ■コレクションと展覧会の諸相
欧米文学研究室	■フランス文学研究の諸問題 ■アメリカ文学研究 ■Graduate English Seminar in Special Topics ■古代ギリシア語文献読解 ■シェイクスピア精読
日本古典文化論研究室	■近松と海音 ■上代文学研究 ■『堤中納言物語研究』 ■中世文学研究
中国文化論研究室	■「易学啓蒙」研究 ■「論語注疏」研究 ■中国文学の諸問題
映像・現代文化論研究室	■60年代ゴダール研究 ■ポストコロニアルの文学 ■世界映画史（初期から戦前にかけて） ■現代文芸理論の研究 ■原爆文学とトラウマ記憶 ■古典的映画理論書・映画史文献講読
言語科学研究室	■アイヌ語学の諸問題 ■アクセント研究 ■日本語語用論研究 ■認知言語学研究 ■ドイツ語学・ゲルマン語学演習 ■ロマンス語意味論研究 ■ロシア語学・スラヴ語学の諸問題 ■古辞書と訓点資料の研究
スラブ・ユーラシア学研究室	■ユーラシア境界研究（英語文献講読） ■Imperial Russian History ■スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法 ■ロシア文化論 ■中欧・バルカン半島の言語と社会 ■中東欧比較政治論 ■スラブ・ユーラシア地域の経済 ■比較の中の中央ユーラシア史
アイヌ・先住民学研究室	■アイヌ民族の祭祀と文学 ■先住民をめぐる法と政治 ■先住民考古学とアイヌ民族史

■修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○修士 「公理的真理理論の証明論的強さについて」、「なぜ生殖は道徳の問題になるのか」 ●博士 「認識論の自然化と科学」
宗教学インド哲学研究室	○修士 「M.エリアーデの理論形成におけるA.K.クマースワミーの影響について」、「臓器提供の宗教的・文化的基礎づけ―スペインと日本の比較を中心として」 ●博士 「サンスクリット叙事詩「マハーバーラタ」第13巻の文学研究」
日本史学研究室	○修士 「海軍縮後の連合艦隊」、「日本古代における日蝕」 ●博士 「室町時代における政治秩序の形成と顕密・禅宗寺院の歴史的位置」
東洋史学研究室	○修士 「サルベイオウルの騒乱と18世紀の西アナトリア社会」 ●博士 「近世福建漳州地域の陳元光信仰と宗教の形成」
西洋史学研究室	○修士 「1970-80年代イングランドサッカー史再考―ローカルクラブの持続性に着目して―」、「14世紀ドイツの鞭打苦行運動と民衆の信仰」 ●博士 「近世アルザスをめぐる権力秩序―神聖ローマ皇帝・フランス王・帝国等族―」
考古学研究室	○修士 「噴火湾北岸域における縄縄文前半の土器群の研究―豊浦町小幌洞窟遺跡・礼文華遺跡における土器群構成分析法の実践―」、「クワトスキに関する考古学的考察」 ●博士 「古典期前期マヤにおける国家形成の研究―三足円筒土器と「テオティワカン」の影響―」
文化人類学研究室	○修士 「観光客がホームにもたらす影響に関する文化人類学的研究」、 「二風谷のアイヌ・コミュニティにおける集合的記憶に関する文化人類学的研究―ニール・G・マンローの事例を通して―」 ●博士 「沈黙」のオートエスノグラフィー―「サイレント・アイヌ」におけるサバルタン化のプロセスとポストコロニアル状況―」
芸術学研究室	○修士 「トンボをモチーフとしたエミール・ガレ作品に関する考察」、「1857-70年におけるクールベのレアリズム―「海の風景画」の造形表現と展示戦略をめぐって―」 ●博士 「狩猟塔トール・デ・ラ・バラダの絵画装飾研究―16、17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連から―」
博物館学研究室	○修士 「博物館と先住民の共同に関する研究―博物館勧告・ガイドラインを事例として―」、 「歴史民族学の観点からみるアイヌとフクロウの関係史―民族調査の記録と文献史料の比較・検討を通して―」 ●博士 「江戸時代におけるツルの生息実態および人との関わり」
欧米文学研究室	○修士 「ニコライ・ゴーゴリの『アラベスキ』に見る編集の問題」、「空白、鏡、創作。J.D.サリンジャーの真実を告げる誤った予言」 ●博士 「ヘンリー・ジェイムズとイーディス・ウォートンの幽霊物語における不死をめぐる問いと探究心」
日本古典文化論研究室	○修士 「『土左日記』の研究」、「近松時代物浄瑠璃の研究」 ●博士 「町衆と文芸―近世初期における堂上と地下との関係をめぐって―」
中国文化論研究室	○修士 「『姑妄言』の悍婦形象の研究」、「清末における騙術の表象に関する考察―「点石斎画報」を中心に」 ●博士 「中国初期探偵小説論」
映像・現代文化論研究室	○修士 「ロバート・アルトマン研究―ロバート・アルトマン映画における音声を中心に」、「有島武郎研究―恋愛・ジェンダー・セクシュアリティをめぐって―」 ●博士 「エドワード・ヤン映画研究―映画の画面における運動の視点から―」
言語科学研究室	○修士 「フランス語・イタリア語・スペイン語の相互行為における呼称代名詞の転換について」、「現代日本語における名詞修飾の形式と意味機能」 ●博士 「アイヌ語の複雑述語の研究」
スラブ・ユーラシア学研究室	○修士 「19世紀前半のロシア歴史小説におけるコサック表象」、「バルト海沿岸におけるロシア・EU地域協力の課題と展望―カリニングラード地域の事例から―」 ●博士 「ロシアの穀物輸出国としての発展可能性と制約要因」

哲学宗教学講座

研究領域としては、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。各分野の主要テキストと本格的に取り組むには複数外国語の習得が欠かせず、古典語が必要となる領域もあります。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐるさまざまな考察の吸収・継承・展開を目指して、不断に思考力・感性・表現力を磨くことが要求されます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらには生命・環境倫理学、AIや神経科学との学際的研究など現代の諸問題に関わる研究まで、多様な研究が行われています。



●哲学倫理学研究室



●宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと世界中の幅広い地域にわたって、このような試みのための場を提供しています。



●日本史学研究室



●東洋史学研究室



●西洋史学研究室



●考古学研究室 **新設**

文化多様性論講座

この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野の教員が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。



●文化人類学研究室 新設



●芸術学研究室



●博物館学研究室 新設

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、ロシア、西洋古典、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析し評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラヴ語等のヨーロッパ系言語学、朝鮮語やアイヌ語を中心とするアジア系言語学、国語学、日本語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻繁に開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上の国におよそ5000の先住民族が暮らしています。先住民学という研究領域は、ほかの学問領域と比べると比較的新しい研究領域ですが、研究課題は幅広く、先住民族を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会開発など様々な課題が含まれます。研究の手法も課題ごとにそれぞれ独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座では、歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の教員が研究しており、アイヌ民族と世界の先住民族に関する研究を領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室 新設

哲学宗教学講座

哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

田口 茂 教授

TAGUCHI Shigeru

研究内容

E・フッサールの現象学、「意識」をめぐる科学者との共同研究、西田幾多郎・田辺元の哲学。主に自我・自己論、間主観性論、明証 (evidence) 論に取り組んできたが、近年は神経科学・数学・ロボティクス・情報科学の研究者と共同で「意識」の学際的研究に取り組んでいる。



▲田口先生の著書
Das Problem des 'Ur-Ich' bei Edmund Husserl
(['フッサールにおける〈原自我〉の問題'])は国際的に高く評価され、多数の文献に引用されている。左はその日本語版。



▲アメリカ・ニュージャージー州にあるプリンストン高等研究所。同研究所のPiet Hut教授（物理学）との共同研究のため滞在したときに撮影（2011年）。右端の時計塔は同研究所のシンボルとして知られている。

「経験」を現象学的に問い直す
哲学と科学の対話を目指して

私は長年「現象学」と呼ばれる哲学的思考を研究してきました。それは、「自明（あたりまえ）」ゆえに普通気づかれない経験の構造を分析し、それに言葉を与えてゆこうとする学問です。近年、幾つかの幸運な出会いに導かれ、科学者との共同研究が次第に研究の中心を占めるようになってきました。私自身は、長い間特に科学と関係のないところで仕事をしてきたので、自分の仕事科学者にとって意味があるのかどうか最初は半信半疑でしたが、彼らが求めているのはむしろ彼ら自身もたない知識であり、その違いにこそ意味があることがわかってきました。それぞれが違う知識や能力をもつからこそ、一緒に働くとき、一人では決してなしえなかったような新しい次元の仕事が可能になるのです。共同研究をしていると、あたかも自分の脳の外に、もう一つ（ないし二つ、三つ…）の脳を外部にもつかのように感じるときがあります。そういう瞬間は大変スリリングです。

「意識」「自己」「自由」とは何か？
異分野融合が新しい知を産み出す

神経科学、情報科学、AI（機械学習）やロボティクスの研究は近年大きな進展を遂げ、その中で「意識」「自己」「自由意志」「動機づけ」「好奇心」といった哲学的テーマが議論されるようになってきています。哲学者も、科学者たちがぶつかっている問題に対して、哲学者として何が言えるのかを問われています。そこで問題に取り組むための考え方やその背後にある前提に関して、哲学者が言えることはたくさんあるように思います。私はたまたま人との出会いに導かれてこのような研究に携わるようになりましたが、もっと多くの哲学研究者が、科学者との共同研究に加わるようになったら面白いと思っています。ノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏は、「異分野融合の場を生かせば、凡才や素人でもイノベーションや独創を生み出すことができる」と言っていますが、至言だと思います。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

哲学宗教学講座

宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、新約聖書学、宗教学、死生学、仏教学などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

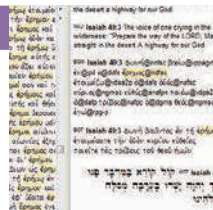
Lab.letters 教員からのメッセージ

佐々木 啓 教授

SASAKI Kei

研究内容

キリスト教の新約聖書、なかでも「ヨハネ福音書」に関して、比較的新しい方法で分析・解釈などを試みている。宗教学の領域では、若くして非業の死を遂げたルーマニア人宗教学者 Ioan Petru Culianu の業績の検討を通して、「宗教」とは何か、「宗教学」とはどのような学問か、といったことをめぐって研究を進めている。

混沌としたキリスト教成立期と
グノーシス主義

私の新約聖書研究の出発点は「初めに言（ことば）があった」の一文で始まるヨハネ福音書です。イエスの言行を記した4つの福音書の中でも抽象的な表現や哲学的な示唆に富んだ内容に惹かれました。そのヨハネ福音書と結びつきが深いとされるのが、「グノーシス主義」。混沌としたキリスト教成立期に盛んになり、後に正統派からは「異端」扱いを受けましたが、いまだ多くの謎を残した宗教思想です。過去には宗教学者ヨアン・P・クリアーノの著作 *The Tree of Gnosis*（『グノーシスの樹』）の邦訳を大学院生たちと一緒に完成させました。クリアーノ研究の重要な位置を占めるものと確信しています。

世界の3分の1がキリスト教徒
グローバル時代を生きる教養に

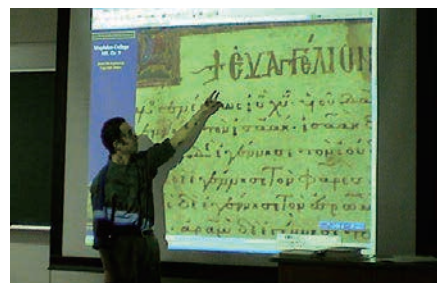
外国を対象とするさまざまな研究の基礎は、言語の習得です。聖書学であれば学部時代に英語やギリシア語を学び、大学院ではヘブライ語やコプト語などの自分が研究対象とする原語の習得も必要です。深い文献読解も原語を理解できこそ。学部生、大学院生ともに励むよう指導しています。

今、キリスト教徒は世界の総人口の3分の1を占めています。アンビシャスな北大生が世界へ羽ばたいた先で必ず出会う彼らについて知ことはグローバル時代の教養であり、相互理解の一助としても生きてきます。また、“クリスマスが大好きなわりにキリスト教自体には無頓着”な日本人だからこそ持てる視点もあるはず。文系理系を問わず関心を持った方はぜひ、ともに学びましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。



▲パピルスに記された新約聖書最古の写本（ヨハネ18:31～33、8.9×6cm）。文学院と部局間交流協定を結んでいるマンチェスター大学の図書館のご厚意により掲載。



▲授業でギリシャ語聖書の写本を解説する佐々木先生。

教員紹介

佐々木 啓 教授 SASAKI Kei

■研究分野
新約聖書学、宗教学

林寺 正俊 准教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 准教授 MIYAJIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

教員紹介

蔵田 伸雄 教授 KURATA Nobuo

■研究分野
応用倫理学、現代英米倫理学、西洋近現代哲学（特にカント）

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学（特に現象学）、意識の学際的研究、近代日本哲学

近藤 智彦 准教授 KONDO Tomohiko

■研究分野
古代ギリシア・ローマ哲学、倫理学

佐野 勝彦 准教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
非古典論理、哲学的論理学

村松 正隆 准教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学

歴史学講座 日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代についての、日本および中国大陸・朝鮮半島・北方地域を視野に入れた実証的研究を特徴としており、これまで多数の研究者を輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史一次史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境に恵まれています。

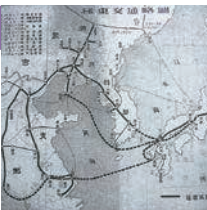
Lab.letters 教員からのメッセージ

権 錫永 教授

KWEON Seok-Yeong

研究内容

- (1) 「帝国主義」研究（国家のあり方としての「帝国主義」と思想としての「帝国主義」を縫い合わせた研究）
- (2) 朝鮮社会文化研究（朝鮮社会の核となる文化を対象とした日韓関係史・帝国史研究）
- (3) 北方論の研究



▲1916年、朝鮮経営に役立たせる目的で、日本陸軍の調査資料を元に刊行。



▲1909年に出版されたこの本で浮田和民は、倫理的帝国主義について論じた。

知識人の思想と史料の融合 帝国と植民地の重なりを描く

知識人の思想を縦系、公文書などの史資料を横系として日本近代・植民地の歴史を描いていく、それが私の研究です。日本の帝国主義とは何だったのか？それを「悪」とする前提から離れて、根本的かつ理性的な批判を繰り返しています。この関心は「植民地とは何か」という問いにもつながります。

植民地朝鮮の実相を明らかにするために私が選んだのは、オンドル（暖房システム）・白衣・陶磁器といった朝鮮の生活文化の社会史研究です。韓国で出版した『オンドルの近代史』（2010年）はその成果の一つ。オンドルの近代史はそのまま帝国日本と植民地朝鮮の「重なり合い、絡まりあった歴史」です。それは日本・日本人を抜きにして語れない、隠れた日本近代史の一部分なのです。

根本的な問いを大切に 恍惚感あふれる研究世界へ

ゼミでは、福沢諭吉をはじめとする様々な知識人の著作を読むこともあれば、「極秘」と記された公文書を読み続けることもあります。一緒にやっているうちに、歴史問題についてのユニークで根本的な問いが可能になるはず。朝鮮研究のエキスパートを育てるために、韓国語による専門のゼミも開講しています。

「恍惚と不安」この言葉には研究者の卵の気持ちが凝縮されています。不安は誰にでもありますが、おそらく意義のある研究には恍惚感が伴うもの。私はその恍惚感あふれる世界への良き案内人でありたいと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

歴史学講座 東洋史学研究室

東洋史学研究室は、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。地域は広大で使用する言語は多様です。漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語で書かれた膨大な史料がひっそりと皆さんの解説を待っています。縦書きや横書きで、竹簡・木簡・紙などに書かれた史料群が。

Lab.letters 教員からのメッセージ

太田 敬子 教授

OHTA Keiko

研究内容

中東におけるイスラーム教徒とキリスト教徒の関係史を研究しています。主に中東のキリスト教社会がイスラーム社会へと変容していくイスラーム化の歴史と、ムスリムとビザンツ帝国の関係史を研究テーマとしています。



▲レバノンの地方都市ビブロスにあるローマ時代の遺跡と地中海。同市に残る遺跡群はユネスコの世界遺産に登録されている。



▲マール・ムーサー修道院の壁画（シリア）。写真はいずれも太田先生撮影。

イスラーム教徒とキリスト教徒 歴史的連続性を持つ中東社会史

東地中海世界は、古くからムスリムとキリスト教徒が隣り合って、或いは混ざり合って暮らしていた地域です。そこには古代からギリシア・ローマ、キリスト教やイスラームに関わる限りなく豊富な史跡が残されています。歴史の中で育まれた多様で豊かな社会は、一方で現在注目を集めているような様々な紛争の現場ともなっています。中東の現代と未来を考える際に歴史研究が担う役割は大きく、学問の社会的な貢献が求められる時代の声に応えるものだと考えております。ムスリムとキリスト教徒の関わりは極めて今日的なテーマでもあります。近現代の問題をも視野に入れながら、多面的な指導で皆さんの探究心を応援します。

貸借依頼が来るほどの充実の資料 探偵の論理とカンで歴史に迫る

中東社会史研究にはアラビア語の習得が必須です。日本語や英語とも違う、これまで言語に抱いていた既成概念を打破するような面白みを持つ言語ですので、取り組みがいがあるのではないのでしょうか。現在、私の研究室にある中東のキリスト教徒関係の資料は、学外の図書館からも頻繁に貸借依頼が来るほどの充実度を誇りますので、皆さんの資料探しも全面的にサポートできます。文献解読は推理小説を読むのと似たところがあり、各要素をバラバラにし、誰もが納得できる説を論理的に組み立てていきます。資料を自分のものにするカンを働かせつつ、探偵になったつもりで資料と向き合えば、歴史がさらに面白く感じられます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

太田 敬子 教授 OHTA Keiko

■研究分野
中東社会史

佐藤 健太郎 准教授 SATO Kentaro

■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■研究分野
秦漢史、中国近現代史、中国民族問題

教員紹介

権 錫永 教授 KWEON Seok-Yeong

■研究分野
日本近代思想史、植民地期朝鮮文化史

白木沢 旭兎 教授 SHIRAKIZAWA Asahiko

■研究分野
日本近現代史、日本経済史

谷本 晃久 教授 TANIMOTO Akihisa

■研究分野
日本近世史、北海道地域史

小倉 真紀子 准教授 OGURA Makiko

■研究分野
日本古代史、土地制度・財政史

川口 暁弘 准教授 KAWAGUCHI Akihiro

■研究分野
日本近代史、明治憲法史

橋本 雄 准教授 HASHIMOTO Yu

■研究分野
日本中世史、東アジア海域史

井上 敬介 助教 INOUE Keisuke

■研究分野
日本近代史、政治史、北海道史

歴史学講座 西洋史学研究室

西洋史学研究室では、古代ローマ史、中近世ドイツ史、イギリスとフランスを中心とした近現代のヨーロッパ史、アメリカ史をカバーし、それらにおける政治史、経済史、社会史、文化史の研究をしています。また、ジェンダーやナショナリズムや移民といった新たなテーマにも取り組んでいます。

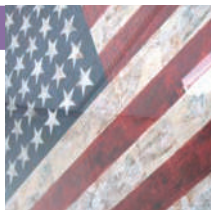
Lab.letters 教員からのメッセージ

村田 勝幸 教授

MURATA Katsuyuki

研究内容

20世紀後半以降のアメリカ社会を対象に、移民(史)、人種主義、エスニシティ、ナショナリティ(およびトランスナショナリティ)、都市空間などに注目して実証研究を行っている。



▲2009年のアメリカ出張時、店頭ではオバマTシャツが販売され、チャイナタウンは活気に満ちていた(村田先生撮影)。

オバマフィーバーが伝える 歴史の声に耳を澄ませよう

2009年1月のオバマ大統領の就任スピーチを聞いて黒人の中年女性が流した涙にはどんな意味があるのでしょうか。遠く遡ると奴隷制や人種差別・暴力など黒人社会に綿々と受け継がれてきた“集合的記憶”が彼女個人の涙の中に結晶化していたわけです。

私のゼミでは、このようにアメリカに関わるさまざまな事柄を〈アメリカン・スタディーズ〉の枠組みで歴史的に位置づけ、政治・経済・文化などさまざまな角度からのアプローチを試みています。日本に多くの影響をもたらしているアメリカを好き嫌いの尺度で決めつけず、その先に踏み込むことで新たな世界観が立ち上がることでしよう。

好奇心の泉を枯らさない 問いかけのバトンリレー

オバマは面白かった2018年の映画として、「ブラック・クランズマン」や「ブラックパンサー」とともに是枝裕和監督の「万引き家族」を挙げていました。関心の広さや思考の柔軟性にとても驚きました。音楽や映画、ファッションなど関心を持つ入り口はどこからでもいいのです。好奇心の泉を枯らさずに、自分の中に生まれた問いかけを豊かに育んでいってください。いい問いかけとは、バトンのようなもの。歴史の流れの中で前後の問いかけとリンクする広がりを持っています。

私自身、まだ知りたいことは山ほどあります。みなさんとは共に勉強する研究者同士というフラットな立場で北大での日々を過ごしていきたいですね。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

歴史学講座 考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフが、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

高瀬 克範 准教授

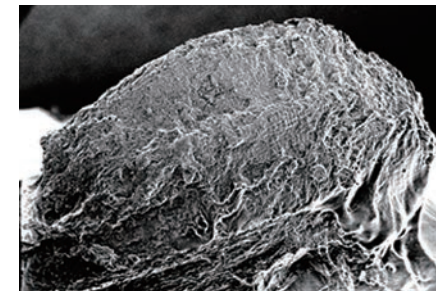
TAKASE Katsunori

研究内容

弥生文化・縄縄文文化の考古学、千島アイヌ史の考古学的研究、日本列島の植物考古学、皮革資源利用の広域比較、北太平洋の古生態系復元。



▲2005年青森県むつ市江豚沢での調査風景。



▲土器の表面に残るイネ籾痕跡の顕微鏡写真。

モノの「声」を聞く考古学 科学的な観察手法も日進月歩

土器を生成する過程でイネやアワの籾殻が付着すると、野焼きの際に籾殻自体が消滅してもその「圧痕」が土器に残ります。土器の年代がわかれば当時の食生活も明らかになるため、非常に有力な手がかりとして今、注目を集めています。圧痕から対象物のレプリカを作る材料も、油粘土や石膏から現在のシリコンへと科学的な日進月歩が続いています。書き手の視点を含む文献史料とは異なり、モノは人々が生活した痕跡そのもの。誰の視点も介在しない公平な一次資料です。そこから何を聞き出すかは研究者の「語りかけ」次第。自分なりのアプローチを考えながら、教科書的な歴史観ではくれない世界の存在を明らかにしていきます。

新技術の導入をためらわない 将来生かされる「技術移転」

考古学研究者に「これだけをやっていただいいい」はありません。調査分析の方法を日々進化させ、現場にフィードバックしては、さらにいい方法がないかを考える、その繰り返し。そのためには大学院生であるうちに新技術に挑み続ける姿勢を身につけることが非常に重要です。私も自分の知識や技術を惜しまずかつすみやかに「技術移転」する心構えで、皆さんを待っています。細かい作業も一度経験しておけば、いつかその手法を活用してみたくなくなったときに二の足を踏まずに取り組めるはず。未経験からくる躊躇がなくなります。北海道大学の適度な少人数制教育は、実に考古学向き。教員と学生の距離を近づけ、細やかな実践指導を可能にしてくれます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

砂田 徹 教授

SUNADA Toru

■研究分野
古代ローマ史

長谷川 貴彦 教授

HASEGAWA Takahiko

■研究分野
近現代イギリス史、歴史理論

松嶋 明男 教授

MATSUSHIMA Akio

■研究分野
近代フランス史

村田 勝幸 教授

MURATA Katsuyuki

■研究分野
アメリカ史、アメリカ研究

山本 文彦 教授

YAMAMOTO Fumihiko

■研究分野
ドイツ中世・近世史

教員紹介

小杉 康 教授

KOSUGI Yasushi

■研究分野
考古学、物質文化論、民俗誌考古学

江田 真毅 准教授

EDA Masaki

■研究分野
動物考古学、文化財科学

高瀬 克範 准教授

TAKASE Katsunori

■研究分野
考古学、植物考古学

高倉 純 助教

TAKAKURA Jun

■研究分野
考古学、文化財科学

文化多様性論講座

文化人類学研究室

この地球上で人類は多様な文化を形作ってきました。文化人類学とは、この文化多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

Lab.letters 教員からのメッセージ

小田 博志 教授

ODA Hiroshi

研究内容

自然と人間、生物多様性と文化多様性のつながりを捉えることができる枠組みを、「いのち」「自発性」「多様性」「脱植民地化」「平和」をキーワードに探求。そのために森林再生、土地に根ざした農耕と種子の保全などの具体例を、地球各地の現場を歩きながら、エスノグラフィーのアプローチで調べている。



▲小田先生は研究テーマ「平和」のためにナチスドイツの強制収容所があったチェコのテレジンで調査をした。国境を越えた草の根の交流が行われている。写真は収容所の塀を修繕しているサマーキャンプの一場面。



▲ドイツによる「20世紀最初のジェノサイド」が行われたとされるアフリカのナミビア・オカカララ地区に建設された文化センター。ここを訪れて歴史を学び、現地の人たちと交流するドイツ人も増えてきている。

南極基地でも宇宙でも エスノグラフィーの現場は無限

近年、注目が高まる「エスノグラフィー」とは、研究対象となる地域や集団の「現場」に立脚した方法論です。調査協力者が実際にどのような生活、活動をしているのか、研究者自身が現場に入り込み行動をともにすることで詳細を明らかにしていきます。南極基地でもスペースシャトルの中でも、人間が活動している現場ならどこでもエスノグラフィーの対象となる可能性を持っています。過去の指導学生が選んだ現場は高崎市のフィルムコミッション、世界自然遺産・小笠原諸島や被爆者団体など十人十色、各自が自分の中にある関心を掘り下げていきました。実践者であるエスノグラファーは、いわば社会の現場と学問研究の領域を行き交いする橋渡し役。活動する文化人類学者として持ち前の好奇心を存分に発揮できます。

採用担当者の心をつかむ現場体験 市場調査や防災対策にも応用可能

エスノグラフィーの強みは、現場で起きている事象を読み解き、論理性をもって体系化できるところ。これはそのまま就職活動の大きなアピールポイントになります。昨今は、米国に続き日本でも市場調査や商品開発にエスノグラファーを登用する企業が出てきました。大震災の経験などから学ぶ「災害エスノグラフィー」に代表されるように、今後社会でこの方法論の需要はますます拡大していくことを確信しています。研究と並行しながら人間的視野を広げてくれる点でも、社会とあなた自身を結ぶエスノグラフィーの醍醐味が体感できるでしょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■研究分野
人類学、平和研究、自然－人間関係、生命論、エスノグラフィ論

山口 未花子 准教授 YAMAGUCHI Mikako

■研究分野
人類学、自然誌、動物論、狩猟研究、北米先住民研究

文化多様性論講座

芸術学研究室

芸術学研究室は、それぞれ美学、西洋美術史、現代美術史を専門とする三人の教員による研究室ですが、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的・普遍的・哲学的な方法と実証的・個別的・歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

谷古宇 尚 教授

YAKOU Hisashi

研究内容

専門は中世後期のイタリア美術。とくに聖堂や修道院建築など、特定の場所との深いつながりをもった絵画をとりあげています。



▲ナボリの修道院回廊にある18世紀のタイル画。修道院は14世紀に建てられた。



▲1966年から1991年にかけて、モスクワやウラジオストクの若き画家たちが集った「シコタングループ」。シコタン（色丹）島やクナシル（国後）島の風景を描いた。

その場所でしか得られない 美術の感動を研究の推進力に

さまざまな感動をもたらしてくれる美術の中でも私の研究対象は、13～14世紀のイタリアの宗教画と20世紀後半にロシアで活動した「シコタングループ」の画家たちです。前者は主に現地の教会や修道院の壁画に見られ、後者はロシア極東の風景を描くなど、どちらも「特定の場所」をよりどころとしている点に解釈の深さ、面白さが潜んでいます。美術史における作品とは、考古学で発見された土器さながらに重要な一次資料。研究者が現地に行くことで得られる情報や感動は専門研究の推進力となります。この現地主義に加えて、フランス語やイタリア語など対象地域の言語を習得することで研究にさらなる厚みが生れます。

美術を入口に社会の諸要素を知る 全ての答えは作品の中に

心を奪う色彩や形など、「自分の好きな作品」をきっかけに美術の世界に魅せられていくのはごく自然なことです。しかしひとたび、その「好き」を研究対象にするとなれば作品の形式的な側面だけでなく、歴史や宗教、政治、文学など作品の背景を幅広く学ぶ必要があります。例えばキリスト教について宗教画を入口に知識を深めていくことは欧米社会を理解するための近道にもなります。こうした知識を蓄えたうえで自分の仮説を検証し、結論が出たときにもう一度その作品に立ち返ってみる。当時の人々はそれをどう受け止めていたのか、その答えはやはり作品の中にあるのではないのでしょうか。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

北村 清彦 教授 KITAMURA Kiyohiko

■研究分野
美学、芸術解釈学

浅沼 敬子 准教授 ASANUMA Keiko

■研究分野
現代美術史

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■研究分野
西洋美術史(イタリア美術史)

文化多様性論講座 博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察して行きます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

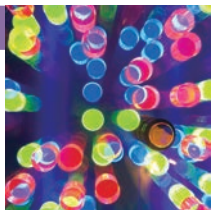
Lab.letters 教員からのメッセージ

佐々木 亨 教授

SASAKI Toru

研究内容

- (1) 博物館学／○ミュージアム経営改善のための評価システム構築
○ミュージアム展示のリニューアル
- (2) 文化人類学／○ミュージアムにおける先住民との共同に関する研究



▲広島平和記念資料館「対話ノート」コーナーは、記録と記憶をつなぐミュージアムの大切な場です。



▲北大総合博物館での展示リニューアル成果、展示制作演習の学生と佐々木先生（右端）。

ミュージアムの評価をサポート 地域や社会に求められる存在へ

ミュージアムに足を運び、「展示がよくわからない」、「ホスピタリティを感じられない」との気持ちになったことはありませんか。国や自治体の財政状況がきびしくなる中、文化事業への風当たりは強く、ミュージアムも自分たちの資源や魅力、そのアピール方法を見つめ直す時期に直面しています。私の研究は、そうしたミュージアムの評価システムを作る活動のサポートに主軸を置いています。評価に必要な要素は来館者数だけではありません。展示空間から感じる癒しやスタッフの対応などさまざまな要素が、アンケートや聞き取り調査によって見えてきます。これらに加えて、ミュージアムが地域に果たすべき社会的役割（ミッション）を再確認し、具体的な評価指標や手法を館と一緒に構築していきます。

フィールドは知のプラットフォーム 現場主義で人間的にも大きく成長

北海道大学には総合博物館というフィールドが身近に存在します。これまで、同博物館の展示リニューアルを大学院演習の一環として継続していて、学生たちは最前線に立ち、現場でしか味わえない経験を積んでいます。資料を提供いただく他学部の先生、展示業者など関係者とのコミュニケーションや相互のスケジュール管理、いずれも社会で求められる資質であり、若いみなさんにぜひ身につけてほしいスキルばかりです。ミュージアムは理系と文系の枠を越えられる自由なプラットフォームです。多くの人間と交わり、社会に必要とされるミュージアムづくりに関わるダイナミズムこそ、みなさんと分かち合いたい私の研究への原動力です。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐々木 亨 教授 SASAKI Toru

■研究分野
博物館学、文化人類学

鈴木 幸人 准教授 SUZUKI Yukito

■研究分野
日本美術史、博物館学

今村 信隆 特任准教授 IMAMURA Nobutaka

■研究分野
美術批評史、博物館学

山下 俊介 助教 YAMASHITA Shunsuke

■研究分野
アーカイブズ学、博物館学

表現文化論講座 欧米文学研究室

ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。西洋古典文学・フランス文学・ロシア文学・英語圏文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文献学・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

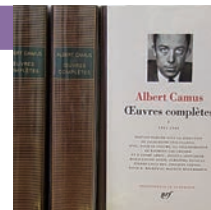
Lab.letters 教員からのメッセージ

竹内 修一 教授

TAKEUCHI Shuichi

研究内容

アルベール・カミュ研究、世俗化（脱宗教化）と文学。



▲パリ・サント＝ジュヌヴィエーヴの丘の上に建つバンテオン（「汎神殿」の意味）。正面には「偉人たちに、祖国は感謝する」という銘句が刻まれている。



▲「死刑囚たちの歴史」——アルベール・カミュ『反抗の人間』をめぐって（風間書房）。

神なき時代の殺人を主題とする カミュの『反抗の人間』

『異邦人』で知られるカミュの著作の中でも本人が「もっとも重要な書物」と記したエッセイ『反抗の人間』については、これまでのフランス文学研究の中でもあまり顧みられることはありませんでした。神なき時代の殺人を主題とする本作に長年取り組んできた私なりの回答を、『死刑囚たちの「歴史」——アルベール・カミュ『反抗の人間』をめぐって』（風間書房）に集約しています。他方、近年では、宗教の影響力が薄れた社会において、人々の記憶をまとめあげる歴史的モニュメントと文学（者）との関係にも興味をもっています。丸善から刊行された『フランス文化事典』では、「聖人」ではなく世俗的な「偉人」たちの霊廟であるバンテオンや無名戦士の墓の設置された凱旋門についての項目を担当しました。

論文形式に基づいた 読ませる文章能力を養う

フランスの高校生は哲学を学び、小論文にあたるような長文を書く経験を積んでいます。日本の場合、皆さんが本格的な長文を書くようになるのはおそらく大学以降でしょう。まずは“序論に始まり結論で終わる”といった論文の形式を入口に、持論を展開できる文章能力を養ってほしいと思います。

北海道大学では、留学の機会も開かれていますし、北大出身で現在活躍中のフランス文学の研究者もいます。人生の若い時期を奥深いフランス文学に費やそうという志ある皆さんの進学を待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

大西 郁夫 教授 ONISHI Ikuo

■研究分野
ロシア文学

瀬名波 栄潤 教授 SENAHA Eijun

■研究分野
英米文学、英語圏文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

竹内 修一 教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
アメリカ文学

戸田 聡 准教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文献学、古代キリスト教史

グリュネヴァルト マティアス 特任准教授 GRÜNEWALD Matthias

■研究分野
外国語としてのドイツ語教授法、社会学

宮下 弥生 助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、世界に冠たるわが国の文化遺産、すなわち、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『古事記』・『万葉集』に代表される上代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

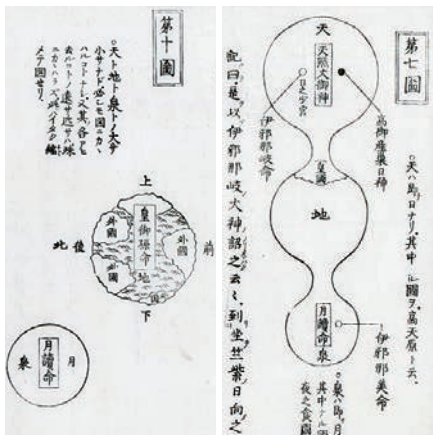
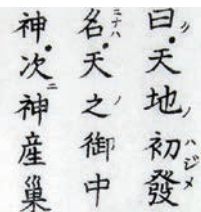
Lab.letters 教員からのメッセージ

金沢 英之 教授

KANAZAWA Hideyuki

研究内容

『古事記』をはじめとする上代文学をどう読めるか、またどう読まれてきたのか、読まれることで何をつくりあげてきたのか。現代の私達自身の問題として考える。



▲『古事記』から受けとめられる世界像は読み解かれる時代に伴い変化する。写真は近世に出版された『古事記伝』の別冊図録（服部中庸『三大考』）。天・地・黄泉という神話的な世界（写真右）が、西洋から入ってきた自然科学の影響を受け、太陽・地球・月として位置づけられた。

『古事記』を古典としてきた日本人の輪郭を描き出す

日本の代表的な古典である『古事記』と『日本書紀』、どちらも漢字で記されたものですが、平仮名・片仮名がまだない時代に「漢字を用いて日本のことばを書こうとした」試みが見られる前者と、国際的な公用語である漢文を使った後者とでは大きく性格が異なります。国文学者の本居宣長は「事」と「ことば」と「心」は一つである、という考えから『古事記』を高く評価し、後の国文学に大きな影響を与えた注釈書『古事記伝』を著しました。以来、『古事記』を古典として持つことで形づくられてきた日本人とは何か。現代の私たちがその意味を考え、日本人の輪郭を描き出す取組みは、大学で「学問」として古典を研究する意義と密接に結びついています。

客観性と科学性を大切に授業で研究世界の入口を体感

『古事記』研究を始める以前は海の生態学を専門としていましたが、〈生物と自然〉から〈人間と自然〉、そして〈人間と文化〉へと視点を広げていくうちに現在の『古事記』研究が専門に。文理の枠を超えても、客観性と科学性が求められる研究手法に変わりはないと実感しています。北海道大学は学生の学習意欲が高いため、研究者であり教育者である我々には理想の環境です。授業ではいつも対象となる研究分野の最新の課題を提供し、奥深い研究世界の入口を体感してもらえるような時間を共有できたらと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

武田 雅哉 教授

TAKEDA Masaya

研究内容

- (1) 明代小説『西洋記』の世界
- (2) 中国近現代のSF小説
- (3) 連環画・年画・ポスター



▲研究室には先生が中国で集めたお宝が満載。写真は猪八戒を含むブタのおもちゃたち。



▲西洋人が思い描いた「植物ヒツジ」の図。東洋にいたと考えられていた。

尊敬する人物は「猪八戒」自分と違うものを知る入口に

もとは黄河の源流を追うことから始まった私の中国文学研究も気がつけば、本国では「これが研究テーマになるの?」と驚かれるようなジャンル—漫画やポスター、幻想科学、乳房文化、女装・男装などの異装史などのただならぬ広がりを見せてきました。学部1年生を対象とする授業に「怪物論」を選んだのも、「自分と違うもの」への理解を深める入口になれば、という願いをこめて。私が最も尊敬する人物である『西遊記』の猪八戒やヒツジが咲く植物の話、あるいは怪物的名女優である宮崎あおいなどの題材から皆さんの「異なるもの」への関心を高めることができましたら喜ばしいかぎりです。

下級生の質問には全て回答資料調べの勘どころを養う

「上級生は下級生から何を聞かれても答えるように」。学生指導において絶えず口に出している言葉です。下級生時代はどんな質問も許される特権を使い、自分が上級生になれば答える側に回る。日を改めてでも人知れず調べた回答を伝えるような慣習が資料調べの勘どころを鍛える訓練になり、自分自身の研究にも役立ってきます。

その昔、私の母親が高校の担任に「この子は将来、仙人にでもなると言っている」と進路相談したところ、なぜか先生の答えは「北大ですね」。今思えば、私の猪八戒研究なども寛容に受け止めてくれる伸びやかな風土を特徴とする本学こそ、まさに的を射た進路指導だったと確信しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■研究分野
中国古代思想、易学思想史

武田 雅哉 教授 TAKEDA Masaya

■研究分野
中国文化、文学、芸術

卯 和順 教授 YUHAZU Kazuyori

■研究分野
中国古代学術思想

教員紹介

金沢 英之 教授 KANAZAWA Hideyuki

■研究分野
上代文学

後藤 康文 教授 GOTO Yasufumi

■研究分野
平安時代物語文学

富田 康之 教授 TOMITA Yasuyuki

■研究分野
近世演劇

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■研究分野
中世説話文学

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

応 雄 教授

YING Xiong

研究内容

映画論、表象論、中国映画・文学論



▲最近の研究やゼミではこんなものを行っています。



▲サンフランシスコの坂道は変化とともにある映画を誘う（応先生撮影）。

スクリーンを走る一瞬間二四コマ
人生も映画のように走ればよい

「物質にせよ精神にせよ、実在は、われわれにとって、不断の生成としてあらわれる。……実在は、決して、できあがった何物のかではない」（ベルクソン）。

「神は計算して世界をつくるという話がまったく本当だとしても、その計算はけっしてきちんと割り切れるようになるものではない。計算の結果に残るそのような割り切れなさ、そのような解消されない不等性、それこそが、世界の条件をなしているのである」（ドゥルーズ）。「予定調和」に基づく古典的映画と異なり、真の現代的映画は、「出来損ない」の相貌を帯びつつ世界や人生を捉える。私もそれに似たようなアプローチを試みているところです。

偏りを排した幅広い教養を糧に
新しい変化を恐れない研究者へ

何を専門としているかと関係なく、人文学にまつわる幅広い知識を身につけてほしいと思っています。修士・博士論文では、先行研究をなぞるだけでなく、必ず新しい「何か」をあなた自身が書かなければなりません。その「何か」を見い出す際にも、映画以外の広い教養がおおいに役立ってくれます。映像・現代文化論を含む人文学は、つねに新しい変化が待たれる分野です。現状に満足せず先に進むことを恐れない研究姿勢は、皆さんの人間としての成長をも後押ししてくれることでしょう。広がりや新しい発見がつねに授業のキーワードになっています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラヴ語、朝鮮語、アイヌ語、日本語（国語学・日本語学）を中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

李 連珠 准教授

LEE Yeonju

研究内容

主な研究分野は、韓国語諸方言及び、中期朝鮮語のアクセント論。記述言語学的な手法に基づいた韓国語諸方言のアクセント研究及び、中期朝鮮語の文献資料からのアクセントを研究しています。最近は、日韓対照研究（対照言語学）にも興味を持っています。



▲15世紀の仏教教典。ハングル文字の左側に付いている傍点により、当時の音調が記されている。



▲フィールドワークでお世話になったインフォーマント（情報提供者）のご夫婦との記念写真。

韓国語アクセント研究の第一人者
地域、時代を超えた法則を発見

韓国語の音声学・音韻論の中でもアクセントに関心を持った私が最初に目を向けたのは、出身地でもある韓国の慶尚道、大邱（テグ）の方言でした。現地でのフィールドワークで得たデータをもとに、『韓国語の漢字語及び漢字1字1字のアクセント-慶尚道大邱（テグ）方言を中心に-』という論文を著し、予測されるアクセント規則を導き出しました。

この共時的な研究を続けていくうちに、現代慶尚道大邱方言と、時代が異なる中期朝鮮語の漢字語のアクセントが実は対応関係にあるという通時的な新発見にもたどり着くことができました。アクセントはまだまだ開拓の余地がある魅力的な分野です。無数にある言葉の海に沈んでいるアクセント規則を見つけた瞬間に味わうときめきは、言語学者冥利につきる感動です。

素直な耳と正しく書き記す手
現地で打ち解ける、大きな心

フィールドワークへ行く前に、記述言語学的な訓練が必要です。“耳を素直にする”音声学もその一つ。母語干渉を受けず、聞いた通りの言葉を国際音声記号で正確に書きとめる練習を積み、誰でも基礎を身につけることができます。そしていよいよ現地へ赴き、インフォーマントの方々と接する際には、お互い人間同士の交流であるという基本を大切にしてほしい。異なる文化風習に触れ、目上の方との接し方を学ぶことで、人間としても大きく成長してもらいたいですね。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

阿部 嘉昭 教授 ABE Casio

■研究分野
映画・サブカルチャー研究、詩歌論

応 雄 教授 YING Xiong

■研究分野
映像表象論

押野 武志 教授 OSHINO Takeshi

■研究分野
日本近代文学、表象文化論

中村 三春 教授 NAKAMURA Miharu

■研究分野
日本近代文学、比較文学、表象文化論

小川 佐和子 准教授 OGAWA Sawako

■研究分野
映画史、音楽劇研究

水溜 真由美 准教授 MIZUTAMARI Mayumi

■研究分野
近現代日本思想史、ジェンダー論

教員紹介

池田 証壽 教授 IKEDA Shoji

■研究分野
国語学、国語史

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■研究分野
言語学、日本語学、語用論

佐藤 知己 教授 SATO Tomomi

■研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

清水 誠 教授 SHIMIZU Makoto

■研究分野
ドイツ語学、ゲルマン語学

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

李 連珠 准教授 LEE Yeonju

■研究分野
韓国語学、言語学、日本語学、音声学

菅井 健太 准教授 SUGAI Kenta

■研究分野
ロシア語学、スラヴ語学

藤本 純子 助教 FUJIMOTO Junko

■研究分野
ドイツ語教授法、異文化コミュニケーション

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

田畑 伸一郎 教授

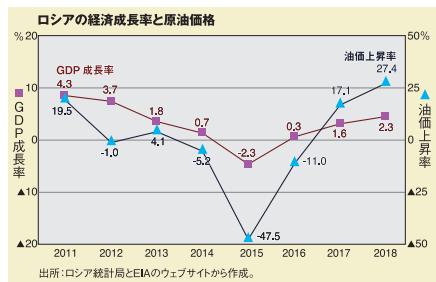
TABATA Shinichiro

研究内容

ロシアの経済構造・循環について統計・実証分析を行い、経済制度・政策について現状・比較分析を行う。



▲サハリン南部のブリゴロドノエ。サハリン北部の大陸棚で採掘された天然ガスがここで液化され、液化天然ガス（LNG）として日本などに輸出される。



▲ロシアの経済成長率と原油価格。原油価格が上がると経済成長率も上がる。自明なことのようにだが複雑な因果関係がある。

エネルギー大国ロシアはいま
経済事情を統計データで分析

ソ連崩壊後30年近くが過ぎた今、ロシア極東はアジア・太平洋地域に対する重要なエネルギー供給源として存在感を増してきました。ロシアの石油とガスは生産量・輸出量いずれも世界第1位から第3位。編著『石油・ガスとロシア経済』（2008年・北海道大学出版会）では、石油・ガスに依存するロシア経済を10人の執筆者とともに多様な角度から分析しました。その中でも私が専門とする研究手法は、統計分析です。モスクワにあるロシア統計局が発表する公式統計データをもとに、石油・ガスと経済成長の関連性を明らかにしています。現在は、ロシアの北極域における石油・ガスの生産やそのロシア経済への貢献に関する研究も行っています。

広い視座から対象地域を知る
中国、インドとの比較研究も

ロシア経済を統計データで解析、と聞くと専門特化した経済学的なアプローチを思い描く人がいるかもしれませんが、私たちスラブ・ユーラシア学講座が基盤とするのは、より有機的な「地域研究」です。週に一度の講座全体ゼミでは政治や歴史など他分野の研究者と卓を囲む機会もあり、広い視野を持ったロシア経済研究が可能になります。各地域に精通した教員たちや、得難い蔵書資料も充実しています。2008年からは新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」がスタート。世界を理解するうえで新たな視座を育む、非常に意欲的なプロジェクトを行いました。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発など、先住民族を取り巻く様々な課題の研究を行います。歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の視点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

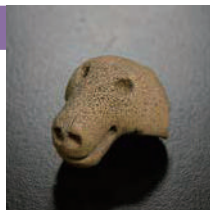
Lab.letters 教員からのメッセージ

加藤 博文 教授

KATO Hirofumi

研究内容

文化的多様性の起源について人類史的な視点からの国際共同研究を進めている。また北海道や世界各地の先住民族の考古遺産や文化的景観を取巻く課題解決を目指して、先住民族考古学の理論と実践に取り組んでいる。



▲礼文国際フィールドスクール。



▲遺跡でのアイヌ式の祖先への祈り。

誰と共に、誰のために歴史を語るのか
大地からのメッセージに耳を傾ける

歴史の語り口は、一つではありません。先住民考古学では、世界各地の先住民の歴史文化遺産の保護を通じて先住民族の権利や文化遺産の所有権についても議論します。現代考古学に色濃く残る西洋的視点と理論を批判的に検証し、口承伝承のような非物質的文化要素も歴史的物語として活用を試みます。この研究手法は、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどではすでに一般的ですが、日本ではほとんど知られていません。北海道は、先住民族であるアイヌ民族が長く暮らしてきた土地です。アイヌ民族の祖先が残した歴史文化遺産が数多く残されています。大地に耳を傾け、誰と共に、誰のために歴史を語るのか、という新たな枠組みづくりを進めています。

地域に基軸をおいた研究
国際フィールドスクールに学び世界とつながる

オックスフォード大学など7カ国の大学と連携した国際先住民研究拠点を構築する事業を実施中です。この国際共同プロジェクトでは、海外の大学でのワークショップやセミナーの開催、大学院生や若手研究者の海外研究機関への派遣を行い研究者育成に取り組んでいます。毎年20名を超える海外の大学院生や若手研究者が北海道でのフィールドスクールに集い交流し、共同研究に取り組んでいます。北海道でアイヌ民族の歴史文化遺産の課題を考える先住民研究の道は、世界各地の先住民研究と繋がっており、私たちを地球規模の課題へと導いてくれます。「自分自身の目で見、自分自身の心で感じる人は、とても少ない。」(Albert Einstein)

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

岩下 明裕 教授 IWASHITA Akihiro

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝国史

ウルフ デビッド 教授 WOLFF David

■研究分野
ロシア史、冷戦史

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

田畑 伸一郎 教授 TABATA Shinichiro

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済、比較経済体制論、北極域研究

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、総合人類学、シベリア人類史

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

北原 次郎太 准教授 KITAHARA Jirota

■研究分野
アイヌ宗教文化、アイヌ語、口承文芸

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア史、日本古代史

山崎 幸治 准教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

近藤 祉秋 助教 KONDO Shiaki

■研究分野
アラスカ先住民学、宗教人類学、狩猟研究



「アメリカ留学したときにディスカッションの熱さに驚きましたが、大学院も同じ雰囲気。授業を受ける姿勢もより積極的になり、今は教わることを全てが楽しいです。」

ありのままの姿を受け止め 多様性の中の私を問う

文化人類学研究室 修士課程2年

酒井 マナ *SAKAI Mana*

文化人類学の中でも
エスノグラフィーを専門とする酒井さん。
各地に足を運んだインタビューで
日本に暮らすイスラエル人の多様性に迫ります。

杉原千畝を出発点に
日本居住のイスラエル人を研究

小さい頃に読んだ本でユダヤ人に“命のヴィザ”を発行した外交官、杉原千畝のことを知り、ユダヤ人や中東について関心を持つようになりました。将来は教師になりたいという夢もあり、ユダヤ人研究と教員免許取得の両立ができる北大文学部へ。交換留学でアメリカに行ったときに授業で「ディアスポラ」（イスラエル以外の地に移り住んだユダヤ人）の存在を知り、「日本に住んでいるイスラエル人について知りたい」という自分の研究テーマが固まりました。日本がフィールドなので欧米の先行研究はなく、手つかずのテーマを見つけられたことも嬉しかったです。

学部3年まで東洋史学の研究室にいましたが、留学後エスノグラフィーの第一人者である小田博志先生に相談して、文化人類学研究室に移籍しています。

五感を使うインタビューで
多様な姿を受け止める

研究手法は、英語もしくは日本語のインタビューです。大きなテーマは「ルーツと多様性」。3、4代前にまで遡ったファミリーヒストリーや日本での暮らしぶりをうかがっています。小田先生から「エスノグラフィーは五感を使う」と教わり、ご当地料理をいただくのはもちろん、歌と一緒に歌ったり、家族の写真をを見せていただいて、日本でたくましく生きている彼らの多様な姿をそのまま受け止めるように心がけています。それと同時に教育や平和など、今まで自分が日本で当たり前のように享受している様々な事柄についても、あらためて考えるようになりました。

将来の教職ではインタビューで培った聞く力を土台に、異文化理解において重要な役割を果たす“言葉の大切さ”を伝えていけたらと考えています。

PROFILE

1995年アメリカで生まれ、3歳のとき日本に帰国。
北海道大学文学部卒業後、大学院に進学。
2019年3月に高等学校教諭一種免許状（英語）を取得。
2018年10月に教員採用試験に合格し、
2020年4月から高等学校教諭として着任予定。



＼ ここをチェック！ ／

入試対策

先行研究と照らし合わせて独自性をアピール

Q. 北大文学部出身の酒井さんは特別入試枠で入りましたが、どういう準備をしましたか？

A. 先に特別入試で入った友達がいたので、彼女の研究計画を見せてもらいながらいろいろアドバイスをもらいました。ポイントは同じ分野の先行研究をどれだけ知っているか。私のように日本在住のイスラエル人研究をしている先例は見つかりませんでしたが、「自分は何を明らかにしようとしているのか」という独自性を際立たせるためにも、出来る限り周辺の先行研究を調べることが重要です。研究計画を書くとき自分の方向性が可視化できて、気持ちの整理にもつながります。そのモチベーションを胸に面接では自分の熱意を精一杯アピールしました。



なんと酒井さんの妹さんも小田研究室所属！エスノグラファー姉妹なのだ。

エスノグラファーの役割は異文化同士のかけ橋になること。
研究を通して「聞く姿勢」が身につきました。

Weekly Schedule 〈修士課程1年：2学期の場合〉

「専門分野以外のこともたくさん学びたい」と学部の授業も受講。
フィールドワークをする同期生と不定期に自主ゼミを開くことも。

MON	塾講師のアルバイト		
TUE	10:30～ 大学院授業「宗教学特殊講義」 13:00～ 大学院授業「文化人類学特別演習」 14:30～ 4、5時限と続けて「文化人類学フォーラム」 ●-----	文化人類学に関わる学内の研究者が横断的に集う場です。先に先生方が発表し、5時限目は私たち学生の番。いろいろな意見をうかがえるのが勉強になります。	
WED	13:00～ 学部生対象授業「文化人類学概論」TA 14:30～ 学部授業「応用社会学」 18:00～ 自主夜間中学「遠友塾」でボランティア	ディアスポラがテーマなので学部生と一緒に受講しています。 私の母校である札幌向陵中学校でおじいちゃんおばあちゃんが国数英社を学ぶお手伝いをしています。クラスの最高齢は94歳。こちらが元気をいただきます。	
THU	10:30～ 学部授業「文化人類学演習」 塾講師のアルバイト		
FRI	16:30～ 教職授業		
SAT	塾講師のアルバイト		
SUN	相手の都合にあわせてオンライン・インタビューをすることも		


ユダヤ教の新年祭「ロシュハシャナー」。民族の歴史を忘れないようにそれぞれの食べ物に意味が込められている。



ユダヤ教の新年祭「ロシュハシャナー」。民族の歴史を忘れないようにそれぞれの食べ物に意味が込められている。

Annual Research Plan 年間計画 〈修士課程1年の場合〉

4月	〔 海外の文献集め 〕-----	
5月		
6月		
7月	〔 フィールドワークの計画準備（飛行機や新幹線、宿泊先を手配） 〕-----	
8月		
9月		
10月	〔 一度につき2～3時間のインタビューを書きおこし、共通点や独自性を分析 〕-----	
11月		
12月		
12月	先行研究と照らし合わせながら、まとめ作業	
1月	発表	
2月	フィールドワークの計画準備（飛行機や新幹線、宿泊先を手配）	
3月	春休み中にインタビューを実施（取材先は神戸）	



フィールドワークでいただいたユダヤ教のお守りは必ず携帯。

日本在住のイスラエル人が作っているFacebookグループに加入して、インタビュー協力者を募る。「北海道からわざわざ話を聞きに来てくれた」と酒井さんを歓迎し、次の協力者を紹介してくれる人も少なくない。アルバイト代はほぼ全て移動・宿泊費に消えていくが、「お金には替えられない貴重なお話を聞かせていただけるので本当にありがたいです」と酒井さん。喜ばれている手土産は北海道大学認定の「札幌農学校」クッキーだ。

※本項は2019年5月現在のデータで構成しています。

人間科学専攻

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

実績

グローバルCOEなど大型研究プロジェクトを牽引した世界レベルの研究実績が揺るがぬ土台に。

人間と社会に関する
総合的な学びに
科学的にアプローチ。

実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法でアプローチ

■ 主な講義題目

心理学研究室	■認知行動科学の問題と方法 ■脳科学研究 ■環境認知の心理学 ■認知神経科学の問題と方法 ■音楽心理学の問題と方法
行動科学研究室	■現代社会心理学の動向 ■比較認知科学の最前線 ■文化と集団 ■環境社会心理学 ■行動科学における実験調査分析 ■数理モデルの理論と方法
社会学研究室	■計量的分析の基礎と応用 ■社会学の理論と実証 ■東アジアにおける社会変動
地域科学研究室	■地域科学研究法の基礎 ■環境と地域の社会学的研究 ■ポリティカル・エコロジー論 ■生物多様性保全論 ■地理学と地理空間情報 ■地誌学研究

■ 修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○修士 「顕著な妨害刺激による視覚的印付けの抑制表象の更新」、「有彩色照明が気分や認知に及ぼす影響」 ●博士 「色彩感情と顔色の関連性－表情と感情語からイメージされる色－」
行動科学研究室	○修士 「無知のヴェールは合意形成を促進するか?：忌避施設立地問題を模したゲーミングによる検討」、 「ウマにおける社会的緩衝作用の実験的検討－同種他個体及びヒトの存在はウマのストレスを和らげるのか－」 ●博士 「累積的文化進化における文化アトラクターの影響：実験室実験を通じた網羅的検討」
社会学研究室	○修士 「越境する中国民間信仰と日本華僑社会－神戸華僑と関帝廟・普度勝会を中心に－」、 「学歴達成の規定要因分析－「中国総合社会調査CGSS-2013」に基づいた計量研究－」 ●博士 「少子高齢化社会における日韓比較－子育て支援、高齢者扶養・介護を中心に－」
地域科学研究室	○修士 「日本のアライグマ対策における実現可能性研究（feasibility study）の導入の検討」、 「里山における土地の重層的利用に関する研究－苦東地域を事例として－」 ●博士 「パキスタン、カイバル・パクトゥンクワにおける農民の気候変動への適応に関する地理学的研究」

心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？
当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行っています。具体的には、知覚、注意、記憶、学習、発達など、長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズムについての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ・マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先進的研究を進めています。協力的行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもちどう変化しているかを個人との関係から記述し因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想すること、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析できることを目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としながら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するとともに、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代社会が抱える多様な問題について、人間社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野を基軸として、「地域の視点」に立った現場での調査を実施し、互いに議論を交わすなかで、「地域」の理解と考察を深めます。各分野の基礎的理論からフィールドワーク技法、分析法、実社会への応用までを、野外実習を交えながらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座

心理学研究室

心理学研究室では、知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

和田 博美 教授

WADA Hiromi

研究内容

妊娠中の実験動物（ラット）に環境汚染物質を投与して、生まれてくるラットの認知行動や社会行動の発達を解析しています。環境汚染物質による発達障害を予測・評価して、予防に役立てる研究を行っています。



▲写真は、赤ちゃんネズミが発する超音波を測定しているところです。赤ちゃんネズミは40～50kHzの超音波を発してお母さんネズミを呼びます。



▲趣味は登山。北穂高岳を目指して命の洗濯。「登山も研究も人生もこつこつと地道な一歩の積み重ねです」。

病気は「治療」より「予防」
社会貢献を意識した研究

私たちの研究室ではラットに環境汚染物質を投与して、認知行動（学習、記憶、注意、不安、うつ）や社会行動（コミュニケーション、他個体認知）の発達を解析しています。発達障害を早期に発見することで予防に役立て、社会に貢献したいと考えています。例えば、赤ちゃんラットは40～50kHzの超音波を出してお母さんラットを呼びます。ところが難燃剤（プラスチックなどを燃えにくくして、火災から人命を守るために使用される）を投与されると超音波発声に変異が起こり、お母さんが気づきにくくなる可能性があります。自然界では赤ちゃんラットの生存が脅かされることになるでしょう。コミュニケーション機能が損なわれることで群れが崩壊する可能性もあります。ラットは人間が捨てた残飯も食べています。ラットに起こる変異は人間に忍び寄る脅威の前兆かもしれません。

思考の独り立ちを促す指導
忍耐の果てに開花する喜びが

実証研究の基本は、疑問に思ったことを自分の目や耳、体で確かめることです。指導学生には、「どうしたいですか」と安易に他人をあてにする前に、まずデータを読み、論文を読んで、論理的に考えて自分なりの結論を導き出すことの重要性を説いています。

また動物を扱う実験に関わる者として、動物実験の倫理や福祉を理解するとともに、ラットのエサやりやファン掃除といった日常の飼育管理も実験の一部であることを忘れてはなりません。半年や一年間かけた地道な世話がやがては目指す「予防」につながっていくのです。忍耐の果てに花を咲かせる経験は、皆さんが社会人となったのちにも大切な人生訓となってくれるのではないのでしょうか。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

行動科学講座

行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、指導教員以外からも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

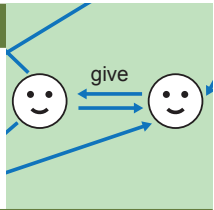
Lab.letters 教員からのメッセージ

高橋 伸幸 教授

TAKAHASHI Nobuyuki

研究内容

社会的交換、秩序問題、社会的公正に関する理論的・実証的研究。



▲北海道大学の教員たちとの共著。

お金、サービス、愛情の交換
個人と社会の相互関係を探る

「社会的交換」とは、人間社会が資源とみなすもの——お金やサービス、情報に限らず、愛情、尊敬といった互いに価値を見出すものを交換しあうことを指しています。

小さな集団から大きな集団、親類縁者や見知った人々の輪から知らない他人同士の社会へ。現代の私たちは人類史上、類を見ない社会を生きています。情報化社会では対面しない人間関係も生まれ、対処する心のしきみを持っていない現代の人間はどうしたらいいのか、わからないことだらけです。社会は個人の意図や行動の集積である一方で、集積したことで一人一人が思いもよらなかった意図せざる結果も生まれます。「社会的交換」などの方法論を用いながらその謎を解明していきます。

回を重ねた指導がモットー
考える力を養い社会を見る

現在指導している大学院生は、内集団ひいき問題に取り組んでいます。人間は自分が属している集団という枠組みを越えて交換しうるのか。学生には相談があればいつでも訪ねてほしいと伝えていますので、回を重ねた対面指導でバックアップしています。

社会心理学に必要な姿勢は、好奇心と想像力を持つこと。自分のこの行動は常識か否か、日常的に考える力が社会を見る目にもつながります。海外からのポストドクターを交えた日常的に英会話が聞こえてくる環境とともに学んでいきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■ 研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

高橋 泰城 准教授 TAKAHASHI Taiiki

■ 研究分野
行動科学、神経経済学

竹澤 正哲 准教授 TAKEZAWA Masanori

■ 研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

高橋 伸幸 教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■ 研究分野
社会心理学、実験社会科学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■ 研究分野
比較認知科学

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■ 研究分野
応用統計学

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■ 研究分野
社会心理学、文化心理学

教員紹介

安達 真由美 教授 ADACHI Mayumi

■ 研究分野
音楽心理学（聴取、演奏、感情・表現、コミュニケーション、発達）

川端 康弘 教授 KAWABATA Yasuhiro

■ 研究分野
認知心理学（色覚、感性、知識、熟達）

和田 博美 教授 WADA Hiromi

■ 研究分野
発達神経行動毒性学

小川 健二 准教授 OGAWA Kenji

■ 研究分野
認知神経科学（特に運動学習や社会認知）

河原 純一郎 准教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■ 研究分野
認知行動科学（注意、記憶、魅力、ストレス、産業応用）

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■ 研究分野
認知心理学（クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ）

社会学講座

社会学研究室

社会学研究室に現在在籍する教員は、現代宗教・アジア地域社会・宗教とウェルビーイング・ソーシャル・キャピタルなどに着目した研究、社会的排除・福祉や医療・質的調査法に関する研究、社会階層・学歴・家族・労働市場などに着目した社会的不平等に関する研究を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

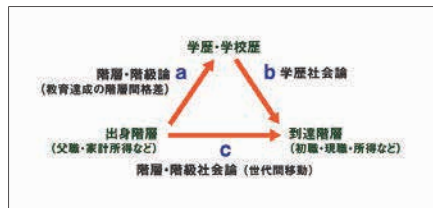
平澤 和司 教授

HIRASAWA Kazushi

研究内容

- (1) 教育から職業への移行に関する研究（とくに大卒者の就職・キャリアについて）
- (2) 出身階層が教育達成・職業達成に及ぼす影響に関する研究（とくにきょうだい数・出生順位・性別が大学進学に与える効果について）

社会学歴



▲学歴社会論と階層・階級社会論。

問36 [回答率33] あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか。				
1 【ア】 よくなった	2 【イ】 やや よくなった	3 【ウ】 変わらない	4 【エ】 やや 悪くなった	5 【オ】 悪くなった
問37 [回答率54] あなたは生活全般に満足していますか、それとも不満ですか。				
1 【ア】 満足 している	2 【イ】 どちらかといえば 満足している	3 【ウ】 どちらとも いえいない	4 【エ】 どちらかといえば 不満である	5 【オ】 不満 である

▲1995年「社会階層と社会移動に関する全国調査」(SSM)B票問36、問37。

日本は変わったか変わらないのか
世論ごと調査対象になる社会学

商人の子どもは商人、と決められていた江戸時代は、「出身階層」が本人の「到達階層」に強く影響した社会でもありました。一方、現代社会では会社員の親を持つ子どもの選択肢は多彩に広がっています。「学歴」が優位に働く学歴社会である事も否定することはできません。ところが、家計の豊かさが子どもの学歴にも影響を及ぼしているため、「出身階層」、「学歴」、「到達階層」が相互に関係性を持っていることが長年の調査データから分かっています。バブル崩壊や少子化、サブプライム問題など時代の波をくぐりながら、日本の社会はどう変化しているのか、あるいは変わっていないのか。ワンショットではない、長期的な視野で社会を見通すところに社会学の面白さが凝縮されています。

正確なデータを収集・分析

注目資格「社会調査士」にも

社会調査をする学生には正確なデータを収集する技術が求められます。主な調査方法はアンケートとインタビューの2つ。前者は先達による優れたアンケート結果がウェブ上で公開される時代になりましたので、自分の目標に沿って再分析し、後者のインタビューでさらに詳細を補足していく。場面に応じた“合わせ技”が有効です。学部2年生以降「社会調査士」の関連科目を通して基本的な調査・分析方法を学び、問題点を見出す能力を身につけます。大学院修士課程を修了すると、さらに「専門社会調査士」を取得することも可能です。調査会社以外の就職でも十分に役立つ将来性を持った新しい資格なので、ぜひ注目してください。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

地域科学講座

地域科学研究室

地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

Lab.letters 教員からのメッセージ

仁平 尊明 准教授

NIHEI Takaaki

研究内容

人文地理学の中でも主に農業や農村を対象として、食料生産、土地利用、観光、持続的発展に関するテーマで研究をしています。北海道や関東地方をはじめとする日本のほか、北アメリカと南アメリカでフィールドワークをしてきました。



▲ブラジル、マトグロッソ州における大豆の収穫(仁平先生撮影)。アメリカの小麦地帯など海外にも研究フィールドを持つ。



▲現地調査の必須アイテムはカメラ、携帯用GPS、フィールドノートと4色ペン、折れ定規。

第一次産業が描く車窓の風景
肉声をすくいあげる研究論文を

旅好きが高じて地理学を始めた私の目をさらに農業へと向けさせたきっかけは、移動中に見かける車窓の風景でした。窓の外には野菜や小麦などその土地固有の田畑が広がり、土地を移ればその景色も変わってきます。農業地理学ではそうした第一次産業が描く風景の違いを入口に、作物がいかに生産され、どういう流通経路を通して私たちの口に入るのかを考えていきます。

主な手法は農業関係者へ聞き取りする現地調査。現地へ足を運ぶからこそ聞かせていただける貴重なお話も多く、肉声をすくいあげた研究論文を完成させることで、建設的な議論を起こしていけたらと思っています。

札幌農学校以来の資料も充実
農業大国北海道は現地最前線

札幌農学校を前身とする北海道大学は、農業関連の資料の充実度が全国トップクラス。この恵まれた環境を生かして必要資料を事前に読み込んでいけば、より深い聞き取りが可能になります。農業大国と言われ、全道に農地が広がる北海道で農業地理学に携われるメリットは数多く、今後とも積極的に道内各地に出向いていく予定です。

私が師匠から聞いた東南アジアやブラジルでの現地調査のエピソードは、自分にも「いつか行ってみたい」という研究意欲をかき立ててくれました。これからこの分野を目指す皆さんにも、私なりに「現地に行かなければ出せない喜び」を伝えていきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

櫻井 義秀 教授 SAKURAI Yoshihide

■研究分野
宗教・文化社会学、タイ地域研究、東アジア宗教研究

樋口 麻里 准教授 HIGUCHI Mari

■研究分野
社会的排除論、福祉・医療社会学、家族社会学、国際比較

平澤 和司 教授 HIRASAWA Kazushi

■研究分野
社会学(特に教育、家族、社会階層)

教員紹介

池田 透 教授 IKEDA Tohru

■研究分野
保全生態学、侵入生態学(外来種管理)、野生動物管理学、ニュージーランド地域研究、社会生態学

笹岡 正俊 准教授 SASAOKA Masatoshi

■研究分野
環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

林 琢也 准教授 HAYASHI Takuya

■研究分野
人文地理学、観光地理学、農村地理学

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi

■研究分野
都市地理学、地理情報科学(GIS)

仁平 尊明 准教授 NIHEI Takaaki

■研究分野
人文地理学、農業地理学、地誌学

立澤 史郎 助教 TATSUZAWA Shirow

■研究分野
保全生態学、環境教育論、シベリア地域研究

宮内 泰介 教授 MIYAUCHI Taisuke

■研究分野
環境社会学、地域社会学、開発社会学



「心理学で実験プログラムを作成するというと意外に思われるかもしれませんが、自分は楽しみながら取り組むことができました。ゲームを作っているような感覚です。」

プログラミングや共同研究 全てを経験に変えて快進撃

心理学研究室 博士後期課程3年

伊藤 資浩 *ITO Motohiro*

学部時代から慕う教員に導かれて
名古屋から北海道大学に来た伊藤さん。
「まずは手を動かす」行動力で
各学会から注目を集める若手のホープです。

活気あふれる研究室、企業との共同研究も

指導教員である河原純一郎先生が中京大学在籍時に、自分はその学部生。こちらのやる気に火をつけてくれるような授業が面白くて、北大に移籍した先生を追う形で北海道に来ました。2019年春時点で河原研究室は院生が7人。皆、河原先生のエネルギッシュな研究姿勢に惹かれて入ってきた仲間です。企業との共同研究も多く、僕も「衛生マスクの着用が印象にどのように影響するか」という研究に参加しました。自分の専門は基礎心理学研究ですが、こうした社会に直結する研究にも関わらせてもらえることが、いい刺激になっています。

初の一人暮らしで不安もありましたが、名古屋と札幌は街中に緑豊かな公園やテレビ塔があるところが似ていて親近感がわきましたし、なにより北大は札幌駅に近い立地が抜群。快適な学生生活を送っています。

注意や記憶の実験を充実の研究環境が後押し

自分の専門は、認知心理学の中でも適切な行動を導く心的機能である注意や記憶に関する研究です。実験プログラムを作成し、被験者に画面を見せて、多数の妨害刺激の中からこちらが指定する標的(色付き文字など)を回答してもらうといった実験をしています。時には脳活動を測定するMRIを使うこともあります。総合大学である北大は医歯学総合研究棟に装置があり、文学研究院の中にもfMRI研究に精通した先生も在籍しているために、非常に恵まれた研究環境で実験を進めることができます。

自分は現在研究室の中で学年が最年長ということもあり、自分の一歩が後輩の見本となるように努力しました。将来はアカデミック志望です。「全てが経験になる」と信じて、これからも精進していきたいです。

PROFILE

1992年愛知県名古屋市生まれ。中京大学心理学部卒業後、中京大学大学院心理学研究科で修士課程修了。北海道大学大学院文学研究科の特別研究学生を経て2017年から博士後期課程に進学、日本学術振興会特別研究員(DC1)に採用。



＼ ここをチェック！ /

入試対策

英語の論文と参考書を読み込む！

Q. 北大の特別研究学生を経て博士後期課程の入試を受けた伊藤さん。特に力を入れた試験対策は？

A. 一言で言うと英語の論文や参考書を読み込む、これに尽きると思います。入試の筆記科目は英語のみなのでアメリカの大学院受験対策の教材「GRE Subject Test: Psychology」を読みながら、各所属教員のテーマに関連する論文をチェックしました。Writing対策は事前に研究計画を英語で書いてみるのがおすすめです。意外なのは口述試験で、その場で提示された心理学の専門用語を即座に解説する場面があること。大学院に入ったら研究に加えて教育の要素も意識することになるので、その力が試されたのかなと思います。参考書『マイヤーズ心理学』のキーワード解説を読み込み、簡潔に答えられるように対策しました。

今こうして北大で研究している自分は、いなかったら、学部生時に河原先生の授業を受けていなかったら、

Weekly Schedule 学部生時(2017年度)2学期の場合

自宅と大学は自転車を通える距離。朝から夜9～10時まで研究室。曜日を問わず実験、データ分析、論文執筆、学会準備に追われる。

MON	10:30～ 学部生対象科目「心理学実験演習」TF	
TUE	授業やTF・TAの仕事がないので研究に集中	注意や記憶に関する行動実験を行います。眼球運動の測定やMRIを使うこともあります。
WED		
THU	14:30～ 学部生対象科目「心理学演習」TA 16:30～ 修士課程対象科目「認知理論特別演習」	
FRI	10:30～ 研究室ゼミ	学部生・院生含め毎週1～2人が発表。意見交換・情報収集を行います。
SAT	朝は自分の時間、昼から大学へ	夜は映画を観に行ったり、研究室のメンバーと出かけたりすることもあります。
SUN		

Annual Research Plan 年間計画 博士後期課程2年の場合

4月	D1の3月に2017年度 SAGE—北大社会科学国際優秀論文賞を受賞、春先は前年度の成果報告や学会準備に集中	
5月	Vision Sciences Society (フロリダ) でポスター発表、認知心理学会 (大阪) でポスター発表	
6月	論文執筆、投稿	
7月	投稿論文の査読、『北海道心理学研究』に論文が採択	
8月	投稿論文の査読、海外ジャーナルに論文が採択	
9月	日本心理学会 (仙台) でポスター発表、この発表で学術大会優秀発表賞の受賞内定	2017年度日本基礎心理学会の「優秀発表賞」とあわせてダブル受賞
10月	北海道心理学会 (札幌) でポスター発表、奨励賞を受賞	
11月	研究論文Ⅱ(博士論文の経過報告)を提出	
12月	日本基礎心理学会 (神奈川) でポスター発表、優秀発表賞を受賞	
1月	カナダのプリティッシュ・コロンビア大学で研究ミーティング	毎年の恒例行事。昨年度は四国横断 (本人右端)
2月	来年度に向けた準備期間、本年度の成果をまとめる	
3月	日本心理学会若手の会 (京都) でポスター発表、ゼミ旅行	

優れた発表で多数の賞を受賞している伊藤さん。常に何かの締切に追われているという。「以前は何カ月も前から準備し、時間があるだけ何度も推敲等の作業を繰り返していました。今は締切から逆算して、適切な時間内で集中して仕上げるやり方。そのほうが自分には合っているようです」。多忙な毎日だが金曜の夜は飲みに行き、オフタイムも楽しんでいる。

在学生のための情報とアーカイブが充実 〈ウェブサイト〉 www.let.hokudai.ac.jp/



文学研究院・文学院・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。



▲文学研究院のオフィシャルFacebookは研究活動や研究情報を中心に更新しています。

人と情報の交差点エントランスホール



教員著書のほか北大所蔵の美術作品の企画展示もおこなう「書香の森」

文学院・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を展示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。興味のある本はすぐ近くの文学部図書室内で借りることができます。

常に机が確保できる院生研究室



研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとり一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学院内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。学生用PC室も新しくなりました。

国際交流室



文学院・文学部の国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。

ラフェイ ミシエル 准教授
LA FAY Michelle

■研究分野
日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

研究推進室



大学院生の出張旅費支援・校閲費支援の窓口、申請書の書き方セミナー（p.07-p.08）等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント（RA）のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やポストドクのみなさんの研究活動をバックアップしています。

文学研究院内センター



応用倫理・応用哲学研究教育センター

本センターの目的は、応用倫理、応用哲学、ジェンダー・セクシュアリティ、死生学に関する研究・教育を推進することにあります。2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関わる研究教育も活動範囲に加え、2018年度より「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、新たに「応用哲学」と「死生学」を研究領域に加えることになりました。



北方研究教育センター

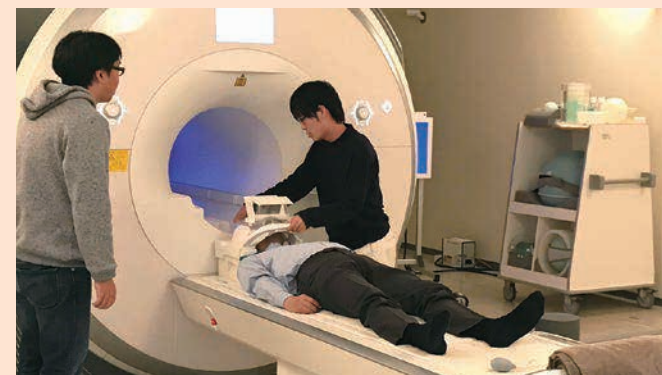
北方研究教育センターは、文学研究院が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、考古、環境など広範な視点から「北方研究」を捉え、研究・教育を進めています。対象地域は、北海道やロシアをはじめ、北欧、北米、北極にも及び、さまざまな大学や研究機関との共同研究や交流の拠点となっています。また、雑誌『北方人文研究』の発刊、シンポジウムや研究会などの企画・運営を行っています。

学内共同施設



社会科学実験研究センター

社会科学実験研究センター（CERSS）は、先進的な社会科学実験を展開する日本唯一の専門機関であり、国内外の主要研究拠点との連携のハブとしての役割を担っています。心理学・認知科学・脳科学と、経済学、法学、政治学を含む社会科学諸分野との接合を図ると同時に、当該分野における若手人材の育成、研究成果の国内外への発信を行い、社会科学実験に関する研究・教育の発展に寄与しています。



人間知・脳・AI研究教育センター

人間知・脳・AI研究教育センターは、新しい「人間知」の創成という理念のもと、数千年来の知の伝統を引き継ぐ人文社会科学と、急速に進展しつつある脳科学（神経科学）・人工知能（AI）の知が高度なレベルで融合する文理融合型研究・教育を行うセンターです。脳科学（神経科学）とAI研究の急速な進展により、旧来人文社会科学が扱ってきた「人間」への問いが新たな仕方です学際的に問われ始めています。本センターは、この挑戦に応え、文理の境界を超えた先端的研究のプラットフォームを作ることを目指します。国内外から最先端の研究者を招聘して行うサマースクール・ウィントースクールを中心に、プログラムに所属する大学院生は刺激に満ちた共同研究に参画し、国内外の研究室・企業へのインターンシップを行うことができます。（2019年7月開設）

学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、130年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外では東京オフィス、海外では韓国ソウルやフィンランドヘルシンキ、ザンビアルサカ、中国北京にオフィスが、またタイ、インドネシア、フィリピンにリエゾンオフィスがあり、出張や留学時の拠点として活用されています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用^{ひいてきりょう}に恵迪寮、女子学部生と女子大学院生用^{そうせいりょう}には霜星寮があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、6か所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「ともに」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

困ったり悩んだりした時には

北海道大学の「学生相談総合センター」では修学、進学、就職などの進路相談に加え、家庭や友人関係などの個人的な問題も相談できます。ハラスメントに関することも相談員の先生が常時対応しています。文学院の建物内にも学生相談室があり、週2回相談を受け付けています。「保健センター」では、健康管理のための定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の作成、学生の健康相談および診療を行っています。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系52、体育会系67、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料免除の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度^{*}や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント（TA）やティーチング・フェロー（TF）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度があり、給与（謝金）を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額(2019年度)

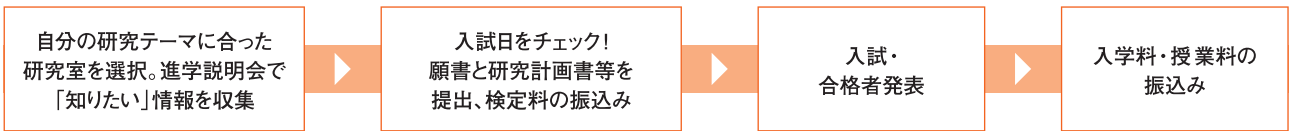
	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円のいずれか	

DATA

- ▶ 文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問]
入試から生活まで幅広いFAQ集
- ▶ 北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活]
さまざまな学生生活情報を網羅→www.hokudai.ac.jp/gakusei/

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。札幌や東京、大阪などで行う進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程、修士課程ともに年2回（9月、2月／修士課程の社会人特別入試は2月のみ）実施しています。詳しい募集要項と過去の入試問題などは文学院のサイトに掲載しています。願書付きの募集要項の請求方法は、ウェブサイトのTOPページの[資料請求]をご覧ください。
- 文学院は、一般学生とは別に外国人留学生（修士課程のみ）や社会人の入試枠も設けています。社会人入学に配慮した長期履修制度もあり、入学後のそれぞれの研究スタイルを選ぶことができます。



2020年(令和2年)度入試カレンダー

		2019年						2020年	
		6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月
進学説明会		15日 東京 16日 大阪 21日 札幌				16日 東京	6日 札幌		
修士課程	一般・外国人留学生		7/29～8/2 出願期間		7日 前期試験 20日 合格発表			6～9日 出願期間	1日 後期試験 18日 合格発表
	社会人		社会人特別入試の 前期試験はありません					6～9日 出願期間	1日 後期試験 18日 合格発表
後博士課程	一般・社会人		12日～18日 出願期間		8日 前期試験 20日 合格発表			10～16日 出願期間	10日 後期試験 18日 合格発表

※修士課程後期試験は、東京試験場でも実施されます。
大学院入試情報 北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→大学院文学院入試情報

社会に扉を開く

[社会人入学(社会人特別入試)]

“社会に開かれた大学院”を目指して修士課程および博士後期課程の入試に「社会人入学(社会人特別入試)」を実施しています。
詳細は、募集要項をご確認ください。

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。
詳細は、北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[文学院]→[長期履修制度]

DATA

- ▶ 検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円
(入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください)
授業料は前期、後期に分けて払います。また、免除制度、奨学金制度などがあります。
- ▶ 入学状況
www.hokudai.ac.jp/introduction/30gaiyou_0705.pdf (31-32ページ)
- ▶ 卒業・修了者数(学位授与数)
www.hokudai.ac.jp/introduction/30gaiyou_0705.pdf (33ページ)

MEMO

- ▶ 研究生
特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。
単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶ 聴講生・科目等履修生
授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。
科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができますが、学位を取得することはできません。

進路・就職

免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状〔国語、社会、英語〕
- (2) 高等学校教諭一種免許状〔国語、地理歴史、公民、英語〕
- (3) 中学校教諭専修免許状〔国語、社会、英語〕
- (4) 高等学校教諭専修免許状〔国語、地理歴史、公民、英語〕

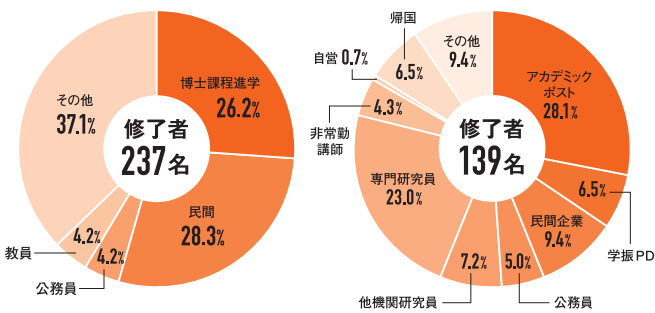
●学芸員資格 ●専門社会調査士

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
平成28年度	80人	15人	30人	35人
平成29年度	85人	27人	29人	29人
平成30年度	72人	20人	28人	24人
過去3年間平均	—	26.2%	36.7%	37.1%

※その他の内訳：留学、帰国、文学研究院研究生など。



修士課程 過去3年間の進路

博士後期課程 過去5年間の進路

〈博士後期課程〉過去5年間の進路

※学振特別研究員や専門研究員を経て就職したケースも含む（修了後5年以内）。
※単位修得退学者の進路も含む。

●アカデミックポスト

大阪教育大学 教育学部 特任講師、金沢大学 人間社会学域 人文学類 講師、九州大学 人間環境学研究院 人間科学部門 特任助教、光塩学園女子短期大学 講師、国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター 特任助教、札幌学院大学 経営学部 経営学科 専任講師、札幌国際大学 観光学部 国際観光学科 専任講師、秀林外語専門学校（専修学校）講師、大東文化大学 社会学部 社会学科 専任講師、長崎大学 多文化社会学部 助教、弘前大学 教育学部 講師、広島市立大学 国際学部・国際学研究科 講師、広島大学 ダイバーシティ研究センター 助教、北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科 専任講師、北海学園大学 工学部 社会環境工学科 准教授、北海学園大学 法学部 法律学科 専任講師、北海道医療大学 専任講師、北海道大学 大学文書館 特任助教、宮城学院女子大学 学芸学部 准教授、室蘭工業大学 国際交流センター 特任助教、立命館大学 総合心理学部 助教（中国）華中師範大学 文学部 講師、江西財經大學 観光・都市管理学院 観光管理学部 専任講師、河北経貿大学 外国語学院 専任講師、西安建築科技大学、西安交通大学 外国語学部 日本語学科 講師、同済大学 助理教授、南京理工大学 准教授、南陽師範学院 専任講師、マカオ大学 人文科学学院 助教授（韓国）崇實大校 日語日文学科 招聘教授（タイ）ナレースワン大学 講師（バングラデシュ）ジャハンギルナガル大学

●学術振興会特別研究員（学振PD）

東京大学、総合研究大学院大学、京都大学、北海学園大学、北海道大学、Institut Jean Nicod（フランス・海外特別）

●民間企業

一般社団法人北海道開発技術センター（研究員）、プロテクト（営業職）、中江病院、駿台予備学校（講師）、北海道チャイナワーク（語学講師）、NTTコミュニケーション科学基礎研究所（リサーチアソシエイト）、北海道地域農業研究所（専任研究員）、ロシアNIS貿易会（副所長）、日本入試センター（総合職）、佐勇（通訳）、商船三井キャリアサポート（貿易事務）、朝日新聞社、センタン（研究員）

●公務員

小樽総合博物館（学芸員）、帯広百年記念館（学芸員）、農林水産政策研究所（政策研究調整官）、北海道立文書館（主査）、北海道警察本部（上級研究職）、本郷新記念札幌彫刻美術館（学芸員）、北海道立高校（教諭）

●他機関研究員

東京大学人文社会系研究科、京都大学文学研究科、慶應技術大学文学部、玉川大学脳科学研究所、関西大学社会学部、国立環境研究所、北海道大学文学文書館

●文学研究院専門研究員

大学院生の就職活動もバックアップ！

●北海道大学キャリアセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

●上級人材育成ステーション

博士後期課程学生とポストドクター向けのキャリア形成支援組織。専門知識を活かしたキャリアパスを創出するための人材育成プログラムを実施しています。

修士課程修了生の就職先 過去3年間

官公庁	総合地球環境学研究所 ブレインパッド ペレ・クール研究所 北海道博物館 松江市立松江歴史館	製造業	旭化成 岡村製作所 賀茂川啓明電機 キトー 日本たばこ産業 パナソニック ヨシムラ	金融業・保険業	イオンクレジットサービス SMBC日興証券 苫小牧信用金庫
情報通信業	アイネット NTT DaTa MSE NTTデータフォース NTTドコモ サイボウズ JBCCホールディングス 新日鉄住金ソリューションズ データフォース トライアルカンパニー 日光システムソリューションズ 日本アイビーエム・ソリューションサービス 日本放送協会 NetEase Interactive Entertainment 富士通ソーシャルサイエンスラボ 北海道新聞社 メンバーズ ユーザックシステム リンクレア	サービス業	エイムネクスト 絵夢アニメーション オリエンタルランド 栗林商会 コンベンションリンケージ シンク ゼネラルサービス 総合商研 テンボスバスターズ ファーストコネク マーキュリー	電気・ガス・熱供給・水道業	アトックス 北海道エア・ウォーター 北海道電力
教育・学習支援業	札幌第一高等学校 東京都立中学校・高校 長野県立高等学校 北海道内中学校 北海道立高校 北嶺中・高等学校 宮城県立高等学校 行知学園 さっぽろ青少年女性活動協会 西安交通大学（中国） ファミリー	卸売業・小売業	ニトリ ビックカメラ	医療・福祉	インテリム 国立病院機構
学術研究、専門・技術サービス業	アクセント 土別市立博物館 住環境計画研究所	建設業	立川工務店	運輸業・郵便業	日本航空 東日本高速道路 ヤマト運輸

博士後期課程
修了者の声
Voices of graduates

金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系
准教授 西出 佳代 さん [2013年度修了]

第二外国語でフランス語を、第三外国語でドイツ語を履修した私は、もともとのフランス史やドイツ文学への興味から、両言語の接触地域の言語状況やそこで話される言語へと徐々に関心を移していました。卒業論文でルクセンブルクとルクセンブルク語を扱おうと決めたとき、その研究領域の豊かな可能性に魅了され研究者の道を志しました。理論言語学から記述言語学まで、大言語から少数言語まで様々な専門の研究が集まる北海道大学という環境は、私に多くの視座を与えてくれました。また、クラーク記念財団や組織的な若手研究者等海外派遣プログラムなどの助成を得て研究に励めたことは、大きな糧となっています。平成28年度には、社会的に高く評価される研究業績を上げ文学研究科の名譽を高めたとして、文学部同窓会より「楡文賞」をいただきました。

北海道大学で得られた広い知見をいかし、現職ではドイツ語学の授業を担当しながらルクセンブルク語の研究を進めています。大学院修了はゴールではありません。常にその先を見据えながら、自分の居場所を確認しつつ前へ進むことが重要ではないかと思います。

北大文学部
▼
北大大学院文学研究科
言語文学専攻 言語科学専修
博士学位取得
▼
北大大学院文学研究科専門研究員
▼
神戸大学専任講師
▼
金沢大学准教授の現職へ

修士課程
修了者の声
Voices of graduates

武庫川女子大学附属中学校・高等学校
教諭 鈴木 良平 さん [2008年度修了]

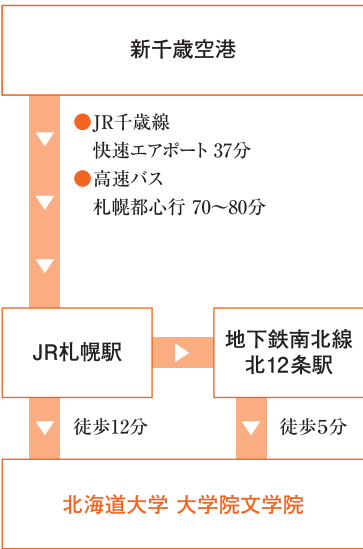
私は中学3年のときから中国史に強い興味・関心があったことから、東洋史学研究室に所属しました。在学中はしっかり中国史の勉強をしたいと思い、学部入学時より大学院進学を決めていました。大学院では、「史記」などの文献史料だけでなく、出土史料を使った、より専門的な勉強ができました。また、学会に参加することで、見識を広めることもできました。

現在の教諭の職には、非常にやりがいを感じています。授業で中学の歴史や高校の世界史を教えることで、今まで感じなかった歴史の大きな流れを理解したり、新たな視点が見つかったりすることがあります。この経験も活かしながら、大学院で取り組んだ研究をライフワークとして続けていきたいと考えています。

教員の現場でも、より専門性が求められる状況にあるので、教員を目指す方にも修士学位の取得をお薦めします。また、大学院に進学することで、自分の興味・関心についての勉強を続けるきっかけにもつながると思います。

北大文学部
▼
北大大学院文学研究科
歴史地域文化学専攻
東洋史学専修
修士学位取得
▼
武庫川女子大学附属
中学校・高等学校
教諭の現職へ

Access



文学院周辺地図



国立大学法人
北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 文学事務部教務担当

電話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

URL <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

○制作・発行 北海道大学 大学院文学研究院
○編集担当 林寺正俊、村田勝幸、佐藤知己、笹岡正俊 (広報誌専門部会委員)
森岡和子、山下朋美 (研究推進室)

○企画・編集 株式会社スペースタイム
○デザイン 株式会社デクチャー / 小杉充司

■本誌に掲載されている情報は2019年6月現在のものです。
■本誌の無断複写 (コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

